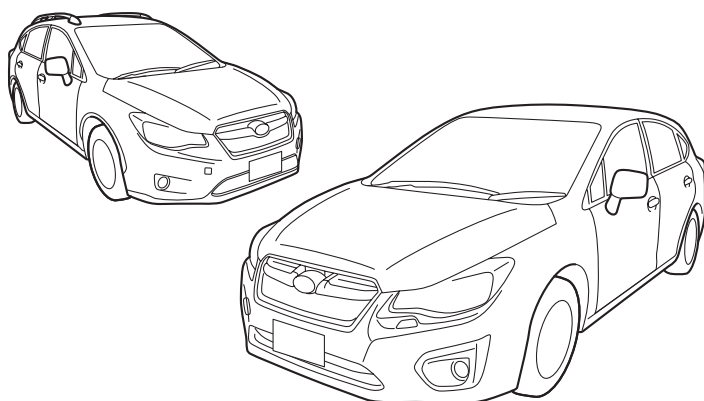
このたびは「インプレッサ／XV」を
お買い上げいただき、ありがとうございます。

本書は「EyeSight（アイサイト）ver.2」の取り扱いかたについて必要事項・重要事項をご説明しています。
安全で快適にお使いいただくために、ご使用の前に必ずお読みください。

本書では「EyeSight (ver.2)」は全て「EyeSight」と表記しています。
EyeSightは運転者への事故被害や運転負荷を軽減するためのシステムです。
運転するときは常に周囲の状況に注意しながら、安全運転を心がけてください。

- 交通ルール・マナーを守り運転しましょう。
- 「EyeSight（アイサイト）」以外の取り扱いについては、別冊の「インプレッサ取扱説明書」をお読みください。
- スバル販売店で取り付けられた装備（販売店オプション）の取り扱いについては、その商品に付属の取扱説明書をお読みください。
- 保証内容および点検整備については、別冊の「メンテナンスノート」をお読みください。
- 取扱説明書は「メンテナンスノート」とともに、お車に保管してください。
- お車をゆずられるときは、次のオーナーのために保証の有無にかかわらず取扱説明書、メンテナンスノートをお車につけておゆずりください。
- ご不明な点は担当営業スタッフにおたずねください。

車の仕様などの変更により、本書の内容がお車と一致しない場合がありますのでご了承ください。

IMPREZA/XV GJ2-004301～,GJ3-004601～,
GJ6-004101～,GJ7-009101～,GP2-011301～,
GP3-007301～,GP6-007801～,GP7-020301～

本書の見かた

表示やマークについて

安全に関する表示

車に乗っている人や歩行者を含めた他の人が傷害を受ける可能性のあることや車体が損傷する可能性があることを回避法とともに示しています。

	指示に従わないと、死亡、または重大な傷害を負う可能性があります。

⚠ 注 意	指示に従わないと、傷害を負う可能性があります。 また、車体が損傷する可能性があります。

その他の表示

アドバイス	知っておくと便利なこと 知っておいていただきたいこと

EyeSight（アイサイト）

EyeSightについて

EyeSight（アイサイト）

EyeSightはさまざまな機能によって、運転者の判断を助け、安全・快適で疲れの少ない運転を可能にする運転支援システムです。EyeSightは、スバル独自のステレオカメラを用いています。２台のCCDカメラを用いたステレオ画像処理により、先行車や障害物、車線などを認識します。

⚠ 警 告

運転者には通常の安全運転の義務があります。運転時は常に先行車との車間距離や、周囲の状況、運転環境に注意して必要に応じてブレーキペダルを踏むなど、安全運転に努めてください。

EyeSightだけに頼った運転は、絶対に行わないでください。

EyeSightは、運転者の判断を補助し、事故被害や運転負荷の軽減を目的としています。警報が作動した場合は前方や周囲を確認の上、運転者の判断でブレーキを踏むなどの適切な操作をしてください。

わき見運転やぼんやり運転など運転者の前方不注意を防止したり、悪天候時の視界不良下での運転を支援する装置ではありません。

また、あらゆる状況で衝突を回避するものではありません。

EyeSightの認識性能・制御性能には限界があります。全車速追従機能付クルーズコントロール、プリクラッシュブレーキ、AT誤発進抑制制御、定速クルーズコントロールの警告を必ず参照の上、正しくご使用ください。誤った使用をすると、適切に制御が行われず、思わぬ事故につながるおそれがあります。

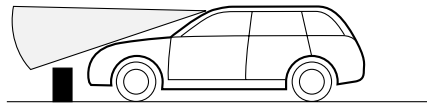
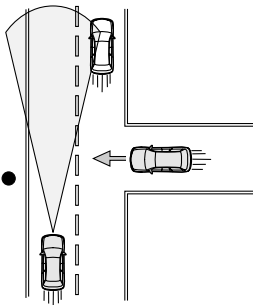
右ハンドル車のEyeSightは、左側通行を想定して設計しています。右側通行の道路で使用する場合は性能が充分に発揮できません。

- 以下の状況では、システムが正しく動作しません。プリクラッシュブレーキ機能をOFFにしてください。また、全車速追従機能付クルーズコントロールを使用しないでください。
  - タイヤの空気圧が適正でないとき※
  - 応急用スペアタイヤを装着しているとき※
  - 摩耗したタイヤまたは摩耗差の著しいタイヤを装着しているとき※
  - 指定サイズ以外のタイヤを装着しているとき※
  - パンク修理キットで応急修理をしたとき
  - サスペンションを改造したとき
  - タイヤチェーンを装着しているとき
  - ヘッドランプが汚れていたり光軸がずれているとき（対象物を正しく照射できず認識しづらい）
  - 事故や故障で自車の走行が不安定なとき
  - ブレーキ警告灯が点灯しているとき
  - 重い荷物を積んで車が傾いているとき
  - 定員を超えているとき

※ホイールおよびタイヤは大変重要な役割を果たしていますので、適正なものを使用してください。
詳細は「インプレッサ取扱説明書」を参照してください。

- 以下の状況では、システムが正しく動作しません。全車速追従機能付クルーズコントロールを使用しないでください。
  - トレーラーや車両などをけん引しているとき

⚠ 注意

- ステレオカメラは人の目と似た特性を持っています。そのため、運転者にとって前方が見えにくい状況では、ステレオカメラも同様に前方の車両や障害物、車線を認識しづらくなります。
- EyeSightの物体の認識はステレオカメラの視野範囲に限られます。また、視野範囲に対象物が入ってから制御・警報の対象となるまでには数秒間かかります。

- 以下の状況では先行車、二輪車、歩行者、路上の障害物、車線を認識しづらくなり、EyeSight が一時停止状態になる場合があります。状況が改善され、しばらく走行すれば再び機能は動作します。
  - 悪天候時（強い雨、吹雪、濃霧など。特にフロントガラスに油膜が付着したり、ガラスコーティング剤を使用したり、古いワイパーをお使いになった場合、一時停止しやすくなります）
  - 前方から強い光（太陽光などによる逆光やヘッドランプのハイビーム光など）を受けたとき
  - フロントガラス上の雨滴や水滴、汚れが充分に拭き取れていないとき
  - フロントガラスに曇りや雪、汚れ、霜、土埃が付着し、ステレオカメラの視界を遮っているときや、その汚れなどに光が当たっているとき
  - 荷物の積載などにより、極端に車両が傾いているとき
  - ルーフ上に積載したカヌーなどがステレオカメラの視界を遮っているとき

次ページへ ⇒

⇒前ページより

– 先行車や対向車両の水や雪などの巻き上げや水蒸気、砂、煙、土埃が舞い、視界が充分でないとき
– トンネルの出入り口を通過するとき
– 前方車両の最後面が小さい（例えばトレーラーなど）、低い、または凹凸があるとき
– 対象物がフェンス、均一な模様（縞模様やレンガなど）や模様の全くない壁、シャッターなどのとき
– 対象物がガラスや鏡の壁や扉などのとき
– 夜間またはトンネル内で、先行車のテールランプが点灯していないとき
– 垂れ幕や旗、垂れ下がった枝、草むらなどを通過するとき
– 急な上り坂、急な下り坂のとき
– カメラの前を手でふさぐなどしたとき
– 真っ暗で周囲に物がないとき
– 周囲一面が同じような色合いのとき（一面に雪景色など）
– ステレオカメラのレンズ部に指紋などの汚れが付着したとき
– フロントガラスへの映り込みにより安定した認識ができないとき
– ステレオカメラに衝撃などが加わり、ずれや歪みが生じたとき

- 以下の状況では、EyeSight が一時停止状態になる場合があります。状況が改善されれば再び機能は動作します。

– 炎天下で放置した後など車内の温度が高いとき、または極寒の環境で放置した後など車内の温度が低いとき
– エンジンの始動直後

- EyeSightの動作に異常があるときはプリクラッシュブレーキ機能（☆ 45ページ参照）と車線逸脱警報機能（☆ 53ページ参照）をOFFにし、全車速追従機能付クルーズコントロールを使用せずスバル販売店で点検を受けてください。

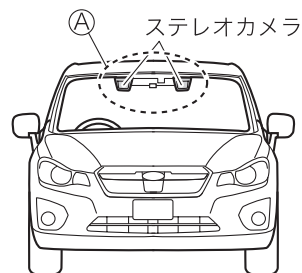
アドバイス

- EyeSight は、プリクラッシュ 2 次ブレーキが作動したときに下記のデータを記録・蓄積します。会話などの音声は記録しません。

– ステレオカメラの画像情報
– 先行車との車間距離
– 車速
– ハンドルの操舵角
– 進行方向に対しての横方向の動き
– アクセルペダルの操作状況
– ブレーキペダルの操作状況
– セレクトレバーの位置
– オドメーターの値
– ABS、VDCおよびTCSの制御に関する情報

スバルおよびスバルが委託した第三者は、記録されたデータを、車の研究開発目的に取得・流用することがあります。なお、スバルおよびスバルが委託した第三者は、取得したデータを次の場合を除き、第三者へ開示・提供することはありません。
・お車の所有者の同意がある場合
・裁判所命令などの法的強制力のある要請に基づく場合
・統計的な処理を行うなどの使用者や車が特定されないように加工したデータを研究機関などに提供する場合

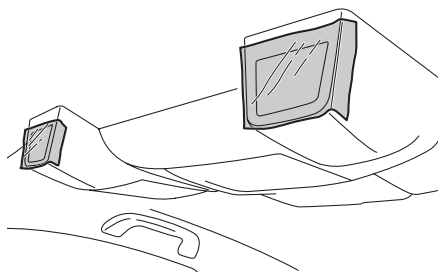
ステレオカメラの取り扱いについて

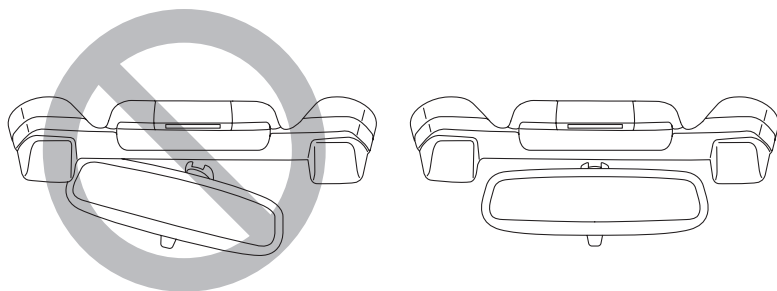
ステレオカメラは天井の前席用スポットマッププランプ部分に装着されています。

⚠ 注 意

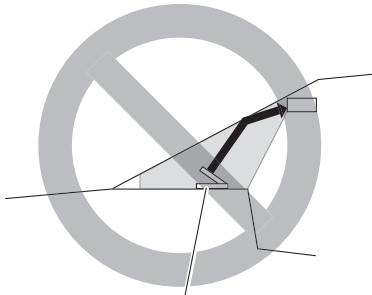
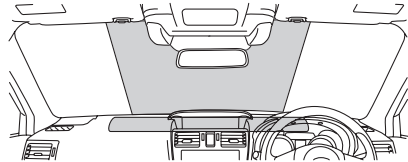
- ステレオカメラ前面の汚れを自動で判定する機能を備えていますが、万全ではありません。
  状況によっては、ステレオカメラ前面の汚れを判定できない場合があります。また、フロントガラスのステレオカメラ付近に雪や氷などが付着したときも、判定できない場合があります。このような状況では、車間距離が適切に保てない場合がありますので、全車速追従機能付クルーズコントロールを使用せず、常に前方に注意して走行してください。
  また、フロントガラスはいつもきれいにしておいてください。（上記イラストのステレオカメラ前方Ⓐの部分）なお、汚れを判定した場合は、定速クルーズコントロールを除く全てのEyeSightの機能が作動しません。

次ページへ ⇒

⇒前ページより

- ステレオカメラのレンズ部は精密部品です。取り扱いについては、下記の注意事項を守ってください。
  - ステレオカメラのレンズ部には絶対に触れないでください。また、レンズ部は清掃しないでください。
    万一、レンズ部に触ってしまった場合は、必ずスバル販売店にご相談ください。
  - フロントガラスを清掃するとき、ステレオカメラのレンズ部にガラスクリーナーなどが付着しないよう、レンズ部にマスキングテープなどを貼って行ってください。清掃後はテープを忘れずに取り外してください。

S00660

- ステレオカメラに強い衝撃や力を加えないでください。
- ステレオカメラを取り外したり、分解しないでください。
- ステレオカメラの取り付け位置を変更したり、周辺構造物の改造をしないでください。
- スバル純正品以外のルームミラー（ワイドタイプミラーなど）を装着しないでください。また、ルームミラーはステレオカメラの前面に重ならないように使用してください。ステレオカメラの視野に影響し、システムが正常に作動しない場合があります。

S00509

- 下図の禁止エリア（グレー部）にスバル純正ドライブレコーダーなど、アクセサリー用品の取り付けまたは設置をしないでください。また、禁止エリア外に置いた場合でも、光の反射やガラスへの映りこみなどによりEyeSightの動作に異常があるときは移動させてください。

- インストルメントパネル上に物を置かないでください。フロントガラスへの映り込みによりステレオカメラが安定した認識ができずシステムが正常に作動しない場合があります。詳しくはスバル販売店にご相談ください。
- インストルメントパネル上面をケミカル剤などで光沢を持たせた場合、フロントガラスへの映りこみによりステレオカメラが安定した認識ができずシステムが正常に作動しない場合があります。
- スバル純正品以外のワイパーブレードを装着しないでください。ステレオカメラの視野に影響し、システムが正常に作動しない場合があります。
- ワイパーブレードは早めに交換してください。拭き残しによりステレオカメラが安定した認識ができずシステムが正常に作動しない場合があります。
- フロントガラス（外側、内側）は常にきれいな状態に保ってください。
- フロントガラス（外側、内側）にステッカーを貼ったり、アクセサリーを取り付けないでください。やむを得ず取り付けなければならない（車検ステッカーなど）ときは、カメラの前面に重ならないようにしてください。ステレオカメラの視野に影響し、システムが正常に作動しない場合があります。
- フロントガラスにガラスコーティング剤などを使用しないでください。システムが正常に作動しない場合があります。
- フロントガラスに傷、ひびなどが生じた場合は、スバル販売店にご相談ください。
- フロントガラスを交換・修理する場合は、スバル販売店にご相談ください。スバル純正品以外のフロントガラスを使用するとステレオカメラが安定した認識ができずシステムが正常に作動しない場合があります。

EyeSightの機能について

EyeSightには、次の7つの機能があります。

■全車速追従機能付クルーズコントロール

クルーズコントロールをセットしてセット車速を保ちながら走行し、同一車線内に先行車がいる場合は、セット車速を上限とした追従走行を行います。

☆16ページ参照

■プリクラッシュブレーキ

前方の車両や障害物に衝突する可能性があるとき、車間距離警報により、運転者の回避操作を促します。それでも運転者の回避操作がない場合、衝突の直前に自動的に急ブレーキをかけ衝突被害を軽減または、衝突を回避します。

☆36ページ参照

■AT誤発進抑制制御

セレクトレバーの位置の入れ間違いやペダルの踏み間違いによる誤った前進を抑制します。

☆46ページ参照

■車線逸脱警報

走行中、車線を逸脱しそうになると、注意を促します。

☆51ページ参照

■ふらつき警報

疲れやよそ見、ぼんやり運転、横風などによるふらつきを認識し、注意を促します。

☆54ページ参照

■先行車発進お知らせ

先行車が発進しても自車が発進しない場合にお知らせします。

☆56ページ参照

■定速クルーズコントロール

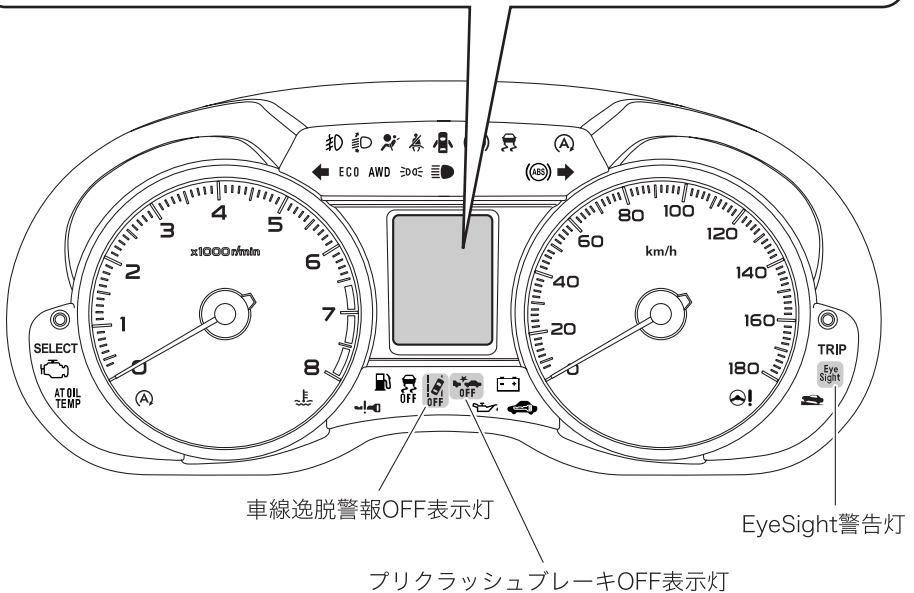
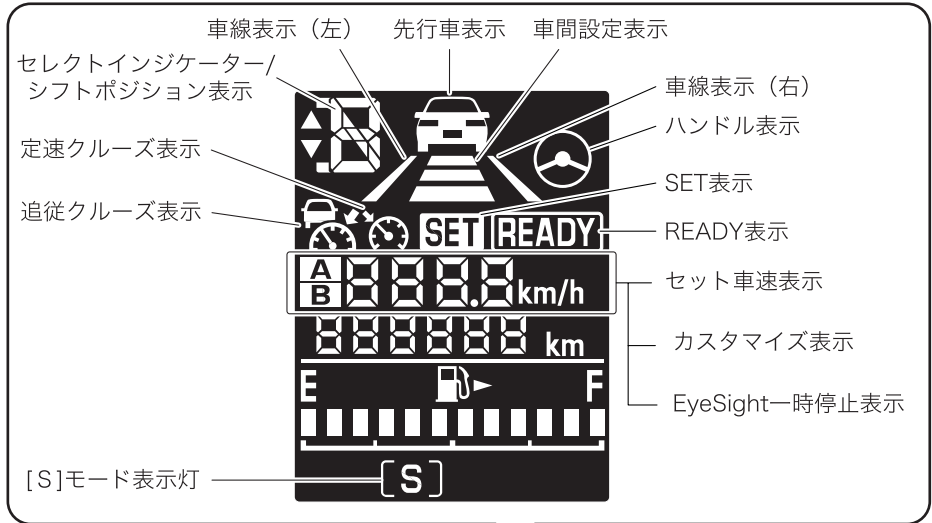
一定速度を保ちながら走行するモードです。追従走行は行いません。EyeSightが一時停止状態（68ページ参照）でも使用可能な場合があります。（この機能は全車速追従機能付クルーズコントロールから切り替えて使用します。）

☆57ページ参照

EyeSightはエンジンがかかっていないとき、作動しません。

表示構成

■コンビネーションメーター

<メーター表示部>

●クルーズ表示［追従クルーズ表示“ ”/定速クルーズ表示“ ”］

クルーズコントロールのメインスイッチ（ ）を押すと表示されます。
☆23ページ参照

●SET表示［全車速追従機能付/定速クルーズコントロール共通］

クルーズコントロールをセットすると表示されます。車両が停止すると、クルーズコントロールが解除されるまで表示が点滅します。
☆24ページ参照

●READY表示

全車速追従機能付クルーズコントロールがセット可能なとき表示されます。
☆23ページ参照

●先行車表示

- 全車速追従機能付クルーズコントロールをセット中、先行車を認識している場合に表示されます。
- 次の場合に車間設定表示とともに点滅します。
  - 先行車発進お知らせ機能が作動するとき
  - プリクラッシュブレーキが作動するとき
  - ブレーキ踏み増し要求警報が作動するとき
  - ＡＴ誤発進抑制制御が作動するとき
- 下記の場合に数回点滅します。
  全車速追従機能付クルーズコントロールをセットして約30 km/h以下において、約30 m以内で追従走行していた先行車がいなくなって自動的に解除されたとき

☆25ページ参照

●車間設定表示

（車間設定）スイッチで設定した車間設定を表示します。
下記の場合に車間設定表示とともに点滅します。
- ブレーキ踏み増し要求警報が作動するとき
- プリクラッシュブレーキが作動するとき
- AT誤発進抑制制御が作動するとき

☆30ページ参照

●セット車速表示

セット車速を表示します。
☆23ページ参照

●[S]モード表示灯

[S]モードスイッチを押すと表示されます。
☆15ページ参照

●セレクトインジケーター /シフトポジション表示

セレクトレバーの位置または選択しているギヤ位置を表示します。

●車線表示

- 車線逸脱警報が作動したとき、左右同時に点滅します。
- ふらつき警報が作動したとき、左右交互に点滅します。

☆51、54ページ参照

●ハンドル表示

車線逸脱警報またはふらつき警報が作動したとき、点滅します。

☆51、54ページ参照

●EyeSight一時停止表示

- EyeSightに異常がある場合、プリクラッシュブレーキOFF表示灯、車線逸脱警報OFF表示灯が点灯し、メーター表示部に“E1”～“E3”が表示されます。ただし、クルーズメインOFF時は表示されません。
- 表示しているときは、定速クルーズコントロールを除くEyeSightの全ての機能が使用できません。

☆68ページ参照

●カスタマイズ表示

エンジンがかかっていてクルーズメインが OFF でセレクトレバーが[P]のとき、警報音量、先行車捕捉音および先行車発進お知らせ機能のカスタマイズを設定できます。

☆70ページ参照

●EyeSight警告灯

- EyeSightが故障したときに点灯または点滅します。
- エンジンスイッチをONにすると点灯し、エンジン始動後約5秒後に消灯します。
- 点灯または点滅しているときは、EyeSightの全機能（全車速追従機能付クルーズコントロール、プリクラッシュブレーキなど全て）が使用できません。

☆67ページ参照

●車線逸脱警報OFF表示灯

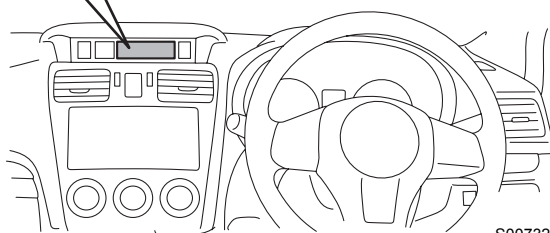
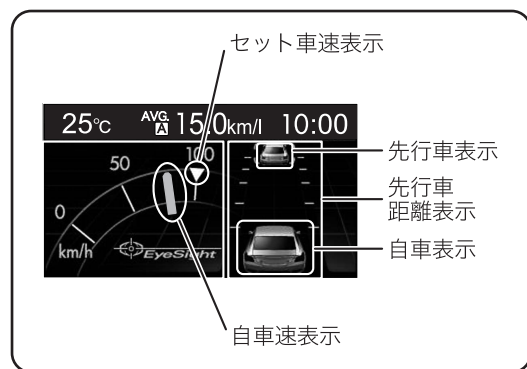
- 車線逸脱警報およびふらつき警報がOFFのとき点灯します。
- エンジンスイッチをONにすると点灯し、エンジン始動後約7秒後、現在の状態（ONまたはOFF）に応じて消灯または点灯します。

☆53ページ参照

●プリクラッシュブレーキOFF表示灯

- プリクラッシュブレーキおよびAT誤発進抑制制御がOFFのときに点灯します。
- エンジンスイッチをONにすると点灯し、エンジン始動後約7秒後に消灯します。

☆45ページ参照

■マルチファンクションディスプレイ

●自車速表示

赤い指針で自車速を表示します。

●セット車速表示

セット車速を表示します。

☆24ページ参照

●自車表示

ブレーキペダルを踏んでいるとき、またはブレーキ制御が作動しているとき、ブレーキランプが赤色で点灯します。

●先行車表示

全車速追従機能付クルーズコントロールをセット中、先行車を認識している場合に表示されます。

☆25ページ参照

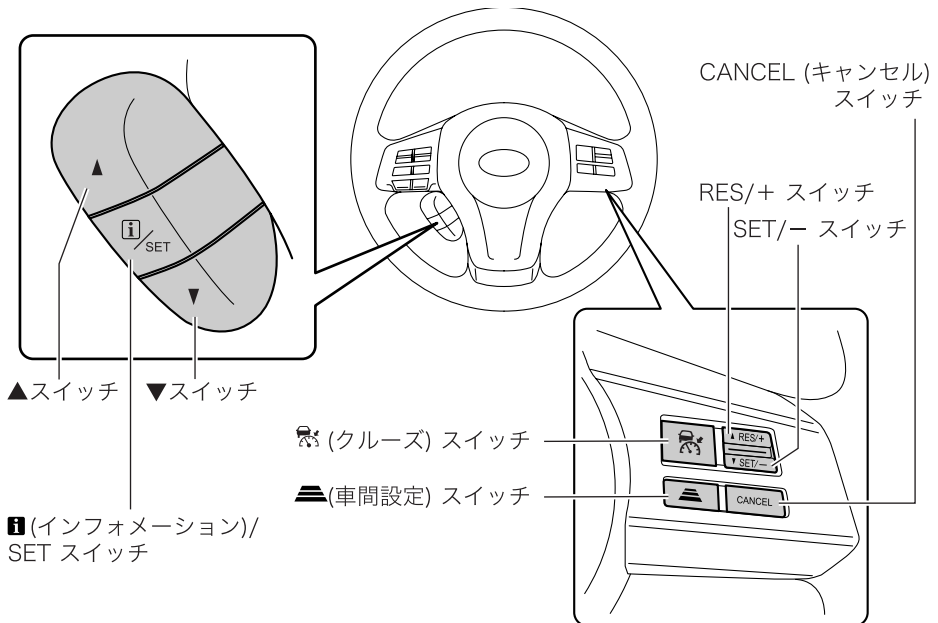
●先行車距離表示

全車速追従機能付クルーズコントロールをセット中、先行車に追従している場合に先行車との距離を視覚的に表示します。

アドバイス

EyeSightの警報や異常を検知すると、マルチファンクションディスプレイに割り込み画面が表示されます。
☆72ページ参照

スイッチ構成

■ステアリングスイッチ

●(クルーズ)スイッチ

- クルーズコントロール※のON、OFFができます。

☆23ページ参照

- このスイッチを押してメーターにまたはが表示されている状態を「クルーズメインON」といいます。

※全車速追従機能付クルーズコントロールおよび定速クルーズコントロール

●SET/−スイッチ
- クルーズコントロール※のセットができます。
- セット車速を下げることができます。（クルーズコントロール※がセット中のとき）

※全車速追従機能付クルーズコントロールおよび定速クルーズコントロール

●RES/＋スイッチ
- クルーズコントロール※を解除後、解除前のセット車速に再びセットすることができます。
- セット車速を上げることができます。（クルーズコントロール※がセット中のとき）

※全車速追従機能付クルーズコントロールおよび定速クルーズコントロール

●CANCEL（キャンセル）スイッチ
クルーズコントロール※のセット状態を解除できます。
☆31、62ページ参照

※全車速追従機能付クルーズコントロールおよび定速クルーズコントロール

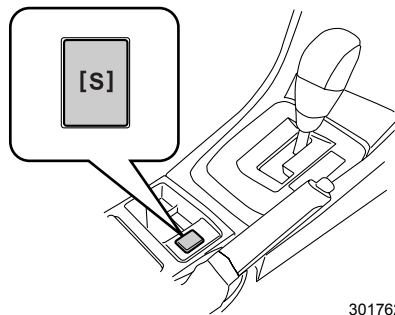
● （車間設定）スイッチ
- 車間距離の設定を「長」「中」「短」の３段階に切り替えることができます。（全車速追従機能付クルーズコントロールのみ）

☆30ページ参照
- （クルーズ）スイッチがONのとき、約2秒以上押し続けると全車速追従機能付クルーズコントロールと定速クルーズコントロールを切り替えることができます。

●▲（戻し）スイッチ/▼（送り）スイッチ
マルチファンクションディスプレイの表示画面を切り替えることができます。

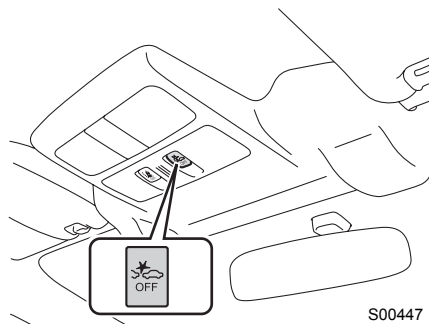
● （インフォメーション）/SETスイッチ
マルチファンクションディスプレイの割り込み画面を再表示することができます。
☆72ページ参照

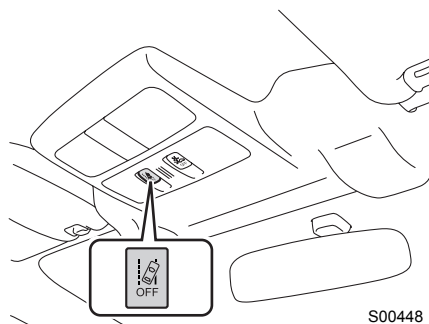
■[S]モードスイッチ

スイッチを押すと［S］モードに切り替わります。
［S］モードを解除するときは再度スイッチを押します。

●[S]モードとの協調制御

［S］モードに切り替えると全車速追従機能付クルーズコントロールの特性が変わり、先行車への追従性能を重視した、メリハリのある追従走行を行います。

■プリクラッシュブレーキOFFスイッチ

約２秒以上押し続けると、プリクラッシュブレーキおよびAT誤発進抑制制御がOFFになります。
OFFにするとメーター内のプリクラッシュブレーキOFF表示灯が点灯します。
再度スイッチを長押しすると、プリクラッシュブレーキおよびAT誤発進抑制制御がONになり、プリクラッシュブレーキOFF表示灯が消灯します。
☆45ページ参照

■車線逸脱警報OFFスイッチ

約2秒以上押し続けると、車線逸脱警報およびふらつき警報がOFFになります。
OFFにするとメーター内の車線逸脱警報OFF表示灯が点灯します。
再度スイッチを長押しすると、車線逸脱警報およびふらつき警報がONになり、車線逸脱警報OFF表示灯が消灯します。
☆53ページ参照

全車速追従機能付クルーズコントロール

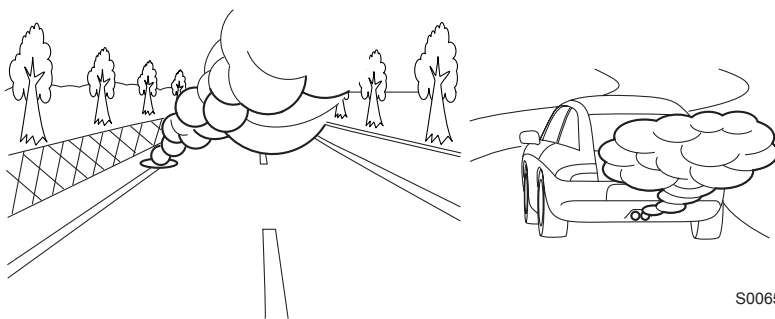
全車速追従機能付クルーズコントロールは、高速道路や自動車専用道路でのドライブをより快適に行っていただくための運転支援システムです。前方の自車線上の先行車をステレオカメラにより認識し、運転者が設定した車速を上限として車速に応じた車間距離を自動的に保ちながら追従走行を行います。運転者の操作なしで停止状態を保持する機能はありません。

⚠ 警 告

- あらゆる走行状況を判断して自動的に運転する装置ではありません。
- 全車速追従機能付クルーズコントロール機能を過信しないでください。わき見運転やぼんやり運転など、運転者の前方不注意や視界不良での運転操作を補助する装置ではありません。また、追突を防止する装置ではありません。

  運転時は、常に先行車との距離や周囲の状況、運転環境に注意し、必要に応じてブレーキペダルを踏むなどして車間距離を保ち、安全運転に努めてください。
- 道路状況、環境にあった適切な車速範囲にセット車速を設定して使用してください。
- 以下の状況では、システムが正しく動作しません。全車速追従機能付クルーズコントロールを使用しないでください。
  - タイヤの空気圧が適正でないとき※
  - 応急用スペアタイヤを装着しているとき※
  - 摩耗したタイヤまたは摩耗差の著しいタイヤを装着しているとき※
  - 指定サイズ以外のタイヤを装着しているとき※
  - パンク修理キットで応急修理をしたとき
  - サスペンションを改造したとき
  - タイヤチェーンを装着しているとき
  - ヘッドランプが汚れていたり光軸がずれているとき（対象物を正しく照射できず認識しづらい）
  - 事故や故障で自車の走行が不安定なとき
  - ブレーキ警告灯が点灯しているとき
  - 重い荷物を積んで車が傾いているとき
  - 定員を超えているとき
  - トレーラーや車両などをけん引しているとき

  ※ホイールおよびタイヤは大変重要な役割を果たしていますので、適正なものを使用してください。
  詳細は「インプレッサ取扱説明書」を参照してください。

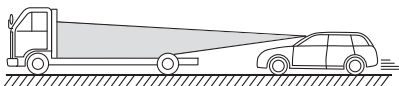
- 全車速追従機能付クルーズコントロールは、高速道路や有料道路など、自動車専用道路での使用を想定しています。次のような状況では、思わぬ事故につながるおそれがありますので、全車速追従機能付クルーズコントロールを使用しないでください。
  - 一般道（自動車専用道路以外）
    道路環境（道路が複雑な場合など）により、交通の状況に沿った走行ができない場合があり、事故につながるおそれがあります。
  - 急カーブがある道
  - 凍結路や積雪路など滑り易い路面
    タイヤが空転し、車のコントロールを失うおそれがあります。
  - 頻繁な加減速により、車間距離が保ちにくい交通状況のとき
    交通環境に沿った走行ができない場合があります。
  - 急な下り坂
    セットした車速を超えてしまう場合があります。
  - 急な下り坂が続くとき
    ブレーキが過熱するおそれがあります。
  - 急な上り坂、下り坂を繰り返す道や陸橋など
    先行車を認識できなかったり、路面を認識したりして、適切に制御できないおそれがあります。
  - インターチェンジ、サービスエリア、パーキングエリア、ジャンクション、料金所などに進入するとき
    先行車を認識できない場合があります。
  - トンネルの出入り口など、明るさが急に変化するとき
  - 先行車や対向車が巻き上げた水や雪や土埃、または風に舞う砂や煙、水蒸気が前方にあるとき
    先行車を認識できなかったり、水などを先行車と認識したりして、適切に制御できないおそれがあります。

次ページへ ⇒

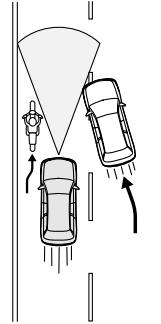
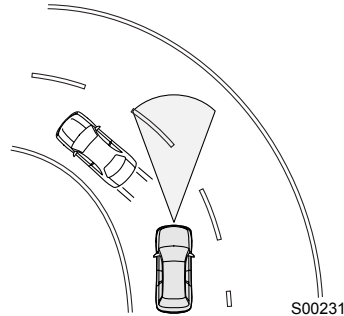
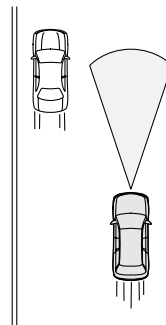
⇒前ページより

– フロントガラスに曇りや雪、汚れ、霜、土埃が付着しているとき
– フロントガラス上の雨滴や水滴、汚れが充分に拭き取れていないとき
先行車を認識できず、適切に制御できないおそれがあります。
– ルーフ上に積載したカヌーなどがステレオカメラの視界を遮っているとき

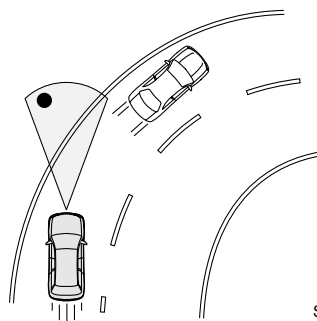
- 次に挙げる物体または状況では、ステレオカメラでの認識が困難な場合があります。必要に応じてブレーキペダルを踏むなどの操作を行ってください。
  – 速度差が大きい車両（低速走行車両、停止車両、対向車）
  – 割り込み車両
  – 二輪車、自転車、歩行者、動物など
  – 夕方、朝方の薄暗いとき
  – 夜間またはトンネル内でヘッドランプを点灯していないとき
  – 夜間またはトンネル内で先行車のテールランプが点灯していないとき
  – 前方から強い光（太陽光などによる逆光やヘッドランプのハイビーム光など）を受けたとき
  – 前方車両の最後面が小さい、低い、または凹凸があるとき（最後面ではない部分を認識して作動を判断することもあります）
    ・荷台にあおりがない空荷のトラックなど
    ・後端から積荷が飛び出している車両など
    ・特殊な形状の車両（キャリアカー、サイドカーなど）
    ・車高の低い車両など

S00654

  – 自車バンパーの極めて近い位置に物体があるとき
- 全車速追従機能付クルーズコントロールを使用しないときは、必ず（クルーズ）スイッチをOFFにしてください。スイッチをONにした場合、思わぬ場面でセットしてしまうなどして、事故につながるおそれがあります。
- 全車速追従機能付クルーズコントロールを使用するときは、同乗者や車のまわりの安全を充分確認してください。また、車外からの操作は絶対にしないでください。

ステレオカメラによる先行車の認識について

- 次のような道路形状や、自車の状況によっては、先行車を認識できない場合があります。また、隣車線の車や路側の物体を認識してしまうことがあります。このような状況下では、全車速追従機能付クルーズコントロールを使用しないでください。使用中の場合は、必要に応じてブレーキを踏むなどしてください。
  - 先行車が割り込んできたときなど、車間距離が短い状態から追従を始めたとき
  - カーブ路、カーブの出入り口、カーブが連続している道路（認識エリアから外れて認識できない場合があります）
  - 先行車との位置が横にずれているとき

次ページへ ⇒

⇒前ページより

－道路のすぐ脇にものがあるとき

－先行車との速度差が大きいとき
－前方に車両が割り込んできたとき
－極端に車間距離が狭いとき
－自車が車線内で蛇行しているとき
－路面にうねりや未舗装などで凹凸があるとき
－車線規制や工事中などで、車線の幅が狭い道路を走行しているとき
－事故や故障で自車の走行が不安定なとき
－自車の荷室やリヤシートに極端に重い荷物を積んだとき

- 全車速追従機能付クルーズコントロールの能力には限界があります。先行車を認識していても速度差が大きい場合や急減速した場合は減速が間に合わないことがあります。必要に応じてブレーキを踏んで減速してください。
- 日常点検でタイヤおよびブレーキに異常がないことを確認してから使用してください。

☆「メンテナンスノート」参照

- ブザーが頻繁に鳴るような状況では、全車速追従機能付クルーズコントロールを使用しないでください。
- 短い車間距離でも、次の場合にはブレーキ踏み増し要求警報が作動しないことがあります。

－先行車との速度差が小さいとき（ほぼ同じ速度で走っているとき）
－先行車の方が自車より速いとき（車間距離が次第に離れているとき）
－他車が至近距離に割り込んできたとき
－先行車が急減速したとき
－上り坂、下り坂が繰り返されるとき

⚠ 注 意

- 追従走行開始後は、先行車の動きに合わせて制御を続けます。先行車の停止に伴い自車も停止した場合は、停止後すぐにゆっくりと自動ブレーキが解除され、クリープ走行を開始します。（このとき“ピッ、ピッ、ピッ、ピー”とブザー音が鳴ります。）必ずブレーキペダルを踏んで車両を停止させてください。
  また、停車状態の保持および停止状態からの自動発進は行いません。
- 以下の条件や状況によりブレーキの効きが悪くなることがあります。必要に応じてブレーキを踏んで減速してください。
  - 車両の状態（積載量、乗員など）
  - 路面の状態（勾配、滑りやすさ、形状、凹凸など）
  - 車両の整備状態（ブレーキ関係、タイヤの摩耗、空気圧、スペアタイヤなど）
  - 外気温が低いときや走行開始直後などでブレーキが冷えているとき
  - エンジン始動後に走行してからしばらくの間（暖機運転終了までを目安としてください）
  - 下り坂などでブレーキが過熱してブレーキの効きが悪くなっているとき
  - 水たまり走行後や洗車後など、ブレーキが濡れてブレーキの効きが悪くなっているとき

全車速追従機能付クルーズコントロールの機能

同一車線内に先行車がいない場合は、セットした車速で定速走行を行います。同一車線内に先行車がいる場合は、セット車速を上限とした追従走行を行います。先行車の停止に伴い自車も停止した場合は、停止後すぐに、ゆっくりと自動ブレーキが解除され、クリープ走行を開始します。自車が約0 km/h～100 km/hの範囲で作動します。

■ブレーキ踏み増し要求警報

全車速追従機能付クルーズコントロールによるブレーキ制御では減速しきれないと判断した場合に、ブザーとメーター表示部の表示でお知らせします。
また、マルチファンクションディスプレイに割り込み画面が表示されます。
☆35ページ参照

⚠ 注 意

自動ブレーキ中にブレーキペダルを踏んだとき、ペダルが固く感じられることがありますが、異常ではありません。さらに踏み込むとブレーキを踏み増しできます。ブレーキペダルから足を一度離すことにより元の状態に戻ります。

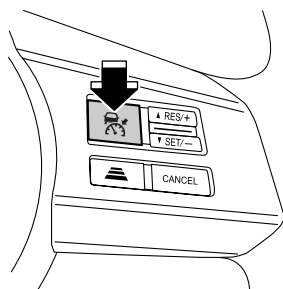
アドバイス

- 前方約90 m以内の同一車線上の先行車をステレオカメラによって認識します。ただし、交通環境、走行状態、先行車の状態によっては認識距離が短くなる場合があります。
- 全車速追従機能付クルーズコントロールでは、[S] モードに変更することによりモードの特徴を生かした追従走行をすることができます。
- カーブ走行中はセット車速が自車速より高いときであっても、加速しないまたは減速することがあります。
- (クルーズ) スイッチを押しても“ ”(追従クルーズ表示) が表示されない場合は、システムの異常が考えられます。スバル販売店に連絡し、点検を受けてください。
- 自動ブレーキ中に音が聞こえることがありますが制御によるものであり、異常ではありません。

全車速追従機能付クルーズコントロールの使用方法

全車速追従機能付クルーズコントロールはエンジンが始動しているときに使用できます。

■全車速追従機能付クルーズコントロールをセットするとき

①全車速追従機能付クルーズコントロールをスタンバイさせます。
(クルーズ)スイッチを押します。
全車速追従機能付クルーズコントロールがONになり、メーター内のEyeSight表示部に“ ”(追従クルーズ表示)と“ ”(車間設定表示)が表示されます。また、トリップメーターがセット車速表示に切り替わり、“－－－ km/h”が表示されます。

S00734

S00735

スイッチをもう一度押すとOFFになり、EyeSight表示部の表示が消灯します。エンジンを止めたときも自動的にOFFになります。

全車速追従機能付クルーズコントロールは、次の条件を全て満たすとセット可能になり、EyeSight表示部にREADY表示が表示されます。

- 運転席・助手席・後席の全てのドアが閉まっている
- 運転席シートベルトを着用している
- 駐車ブレーキが解除されている(ブレーキ警告灯消灯)
- セレクトレバーがDに入っている
- ブレーキペダルを踏んでいない
- EyeSightが一時停止していない

☆68ページ参照

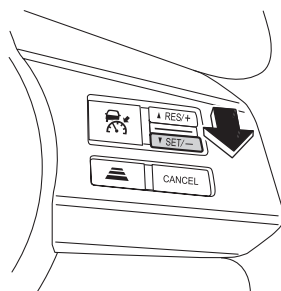
- 急な坂道でない
- ハンドルを大きく切っていない
- VDCを解除していない(VDC OFF表示灯消灯)
- 車速が約 0km/h～100km/h のとき

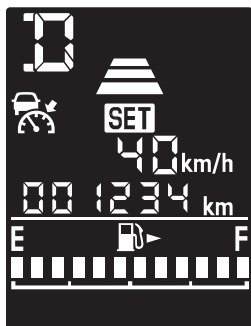
次ページへ ⇒

⇒前ページより

(クルーズ) スイッチを押してクルーズメイン ON にすると、マルチファンクションディスプレイの表示がアイサイト画面に切り替わります。
3 連メーターや時計表示に戻すときは、ハンドルの▲▼スイッチを手前に引きます。

S00736

② 全車速追従機能付クルーズコントロールをセットします。
SET/−スイッチを押します。
全車速追従機能付クルーズコントロールがセットされ、制御を開始します。
メーター表示部にセット車速と SET 表示が表示されます。
また、マルチファンクションディスプレイにセット車速表示（▼マーク）が表示されます。
先行車を認識していないときは定速走行します。

S00480

＜メーター表示部＞

S00737

＜マルチファンクションディスプレイ＞

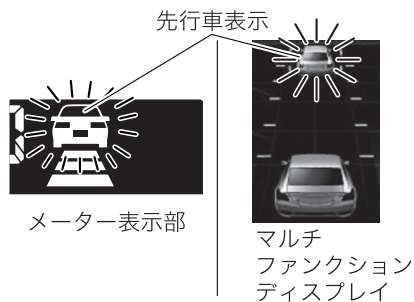
セット車速表示

25℃ AVG. A 15.0km/l 10:00
50 100 0 km/h EyeSight

S00738

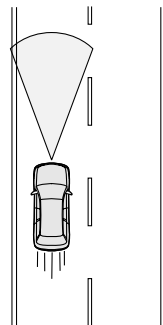
アドバイス

- セット車速は40 km/h〜100 km/hの範囲で設定できます。
- 自車速が約 40 km/h 以下のときにセットした場合、セット車速は自動的に40 km/hに設定されます。

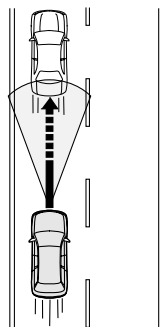
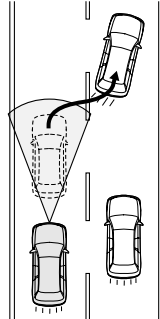
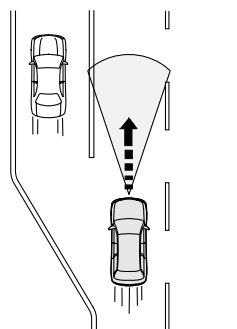
先行車を認識すると、“ピッ”と鳴ると同時に先行車表示が表示されます。
所定の車間距離を保って追従走行します。このとき、セット車速が速度の上限となります。
また、先行車を認識しなくなったときは、“ピッ”と鳴ると同時に先行車表示が消灯します。

アドバイス

先行車を認識したとき、または先行車を認識しなくなったときのブザー（先行車捕捉音）の作動あり/作動なしの設定を変更することができます。
☆70ページ参照

全車速追従機能付クルーズコントロールの作動

- 先行車がいない場合
  セット車速（約40 km/h 〜100 km/h）で定速走行します。

次ページへ ⇒

⇒前ページより

- 先行車がいる場合
  セット車速（約40 km/h～100 km/h）を上限として、車速に応じた車間距離を保ちながら追従走行を行います。

- 先行車がいなくなった場合
  約30 km/h以下において、約30 m以内で追従走行していた先行車を認識しなくなったときは、“ピーッ”というブザーとともに自動的に全車速追従機能付クルーズコントロールを解除します。
  このとき、先行車表示が点滅します。

前述以外で先行車を認識しなくなったときは、セット車速までゆっくりと加速し、定速走行を行います。
セット車速までの加速中に先行車を認識すると、再び追従走行を行います。

アドバイス

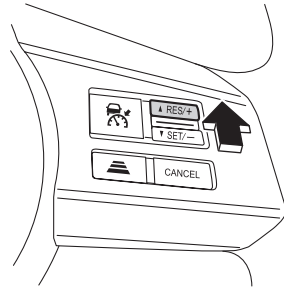
- 全車速追従機能付クルーズコントロールの制御によりブレーキが作動したときは、制動灯が点灯します。
- 先行車がいない場合でも下り坂などではセット車速を保つため、全車速追従機能付クルーズコントロールの制御によりブレーキが作動することがあります。
- 素早く加速したいときはアクセルペダルを踏んで加速してください。

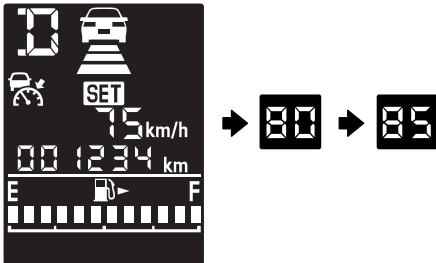
■セット車速を上げるとき

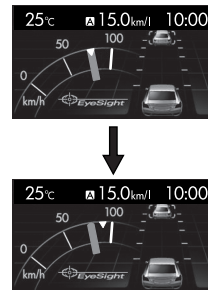
●RES/＋スイッチによる方法

全車速追従機能付クルーズコントロールをセットして走行中、RES/＋スイッチを次のように操作します。

- RES/＋スイッチを1回ずつ押す
  押す毎にセット車速が 5km/h ずつ上がります。
- RES/＋スイッチを押し続ける
  押している間、セット車速が1km/hずつ上がります。

スイッチを操作するごとにメーター表示部およびマルチファンクションディスプレイのセット車速が変わります。

S00478

＜メーター表示部＞

S00765

＜マルチファンクションディスプレイ＞

S00766

●アクセルペダルによる方法

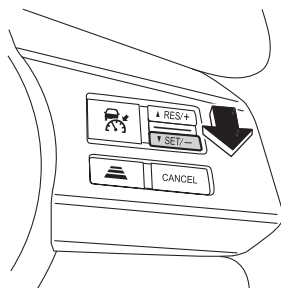
アクセルペダルを踏み、速度を上げます。
希望の速度になったらSET/－スイッチを押します。スイッチを押したときの車速にセットされ、メーター表示部およびマルチファンクションディスプレイに新しいセット車速が表示されます。

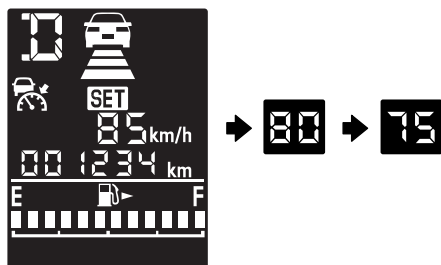
■セット車速を下げるとき

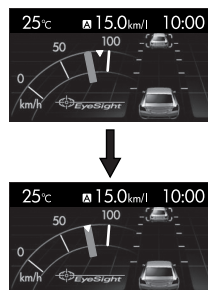
●SET/ースイッチによる方法

全車速追従機能付クルーズコントロールをセットして走行中、SET/ースイッチを次のように操作します。

- SET/ースイッチを1回ずつ押す
  押す毎にセット車速が 5km/h ずつ下がります。
- SET/ースイッチを押し続ける
  押している間、セット車速が1km/hずつ下がります。

スイッチを操作するごとにメーター表示部およびマルチファンクションディスプレイのセット車速が変わります。

S00480

＜メーター表示部＞

S00767

＜マルチファンクションディスプレイ＞

S00768

●ブレーキペダルによる方法

ブレーキペダルを踏み、速度を下げます。
(全車速追従機能付クルーズコントロールが解除されます。)
希望の速度になったらSET/ースイッチを押します。スイッチを押したときの車速にセットされ、メーター表示部およびマルチファンクションディスプレイに新しいセット車速が表示されます。

■一時的に加速したいとき

一時的に加速したいときは、アクセルペダルを踏みます。
アクセルペダルを離すと、セット車速まで戻ります。

■一時的に減速したいとき

一時的に減速するときは、ブレーキペダルを踏みます。このとき、全車速追従機能付クルーズコントロールは解除されます。
このとき、画面表示は次のようになります。

- メーター表示部：
  セット車速は表示されたまま、SET表示が消えます。
- マルチファンクションディスプレイ：
  セット車速表示（▼マーク）が消えます。

セット車速に再びセットする場合はRES/＋スイッチを押します。

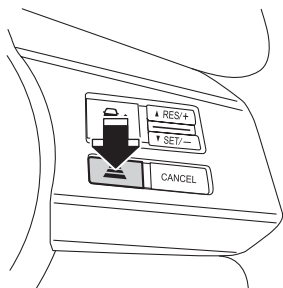
＜メーター表示部＞

＜マルチファンクションディスプレイ＞

⚠注 意

- 全車速追従制御しているときは、先行車に合わせた車速で制御されるため、RES/ ＋スイッチを押して、先行車の速度以上にセット車速を上げても加速しません。
  ただし、セット車速は変更されているため、先行車を認識しなくなるとその設定した車速まで加速します。セット車速はメーター表示部のセット車速表示を確認しながら変更してください。
- 全車速追従機能付クルーズコントロールを設定中でアクセルペダルを踏んでいるときは、全車速追従機能付クルーズコントロールによる自動ブレーキも警報も行いません。ただしこのときでも前方障害物への衝突の危険性が高いときは、プリクラッシュブレーキによる警報やブレーキ制御が作動することがあります。
- 通常、追従制御中は先行車の速度に合わせて自動的に加減速を行います。しかし車線変更などで加速が必要な場合や先行車が急減速したとき、他車が割り込むなどして先行車に接近しそうになったときなどは、アクセルペダルまたはブレーキペダルを踏んで、周囲の状況に応じた適切な加減速を行ってください。

■車間距離を変えるとき

先行車との車間距離を3段階で設定することができます。
（車間設定）スイッチを押すごとに先行車との車間距離が「長」→「中」→「短」→「長」の順に切り替わります。

S00741

車間設定	表示
長	
中	
短	

S00671

アドバイス

- （クルーズ）スイッチをOFFにしたり、エンジンをかけるたびに、車間設定は「長」の設定となります。
  再び車間設定を変えるときは、（車間設定）スイッチを押してください。
- 車間距離は車速に応じて変わり、車速が高いほど長くなります。

＜車間距離の目安＞

車間距離	自車の走行車速	
	約40km/h	約100km/h
長	約25m	約50m
中	約20m	約40m
短	約15m	約30m

■解除のしかた

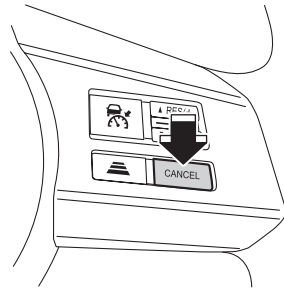
●運転者の操作による解除

次のいずれかの操作で全車速追従機能付クルーズコントロールが解除されます。

- CANCEL（キャンセル）スイッチを押す。
- ブレーキペダルを踏む。

S00742

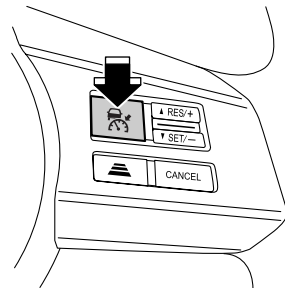
このとき、画面表示は次のようになります。

- メーター表示部：
  セット車速は表示されたまま、SET 表示が消えます。
- マルチファンクションディスプレイ：
  セット車速表示（▼マーク）が消えます。

＜メーター表示部＞

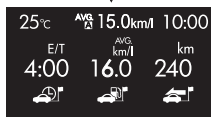
S00740

＜マルチファンクションディスプレイ＞

S00769

- （クルーズ）スイッチを押す。
  メーター内のEyeSight表示部が消灯し、全車速追従機能付クルーズコントロールがOFFになります。

S00734

アドバイス

全車速追従機能付クルーズコントロールをOFFにすると、マルチファンクションディスプレイの表示は３連メーターに切り替わります。
☆「インプレッサ取扱説明書」参照

S00743

●システムによる自動解除

先行車の停止に伴い自車も停止した場合、“ピッ、ピッ、ピッ、ピー”というブザーが鳴り、全車速追従機能付クルーズコントロールが自動的に解除されます。

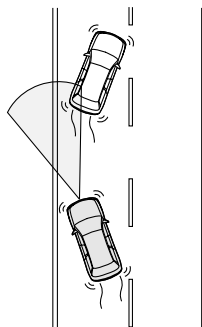
注　意

停止してから約２秒後にゆっくりと自動ブレーキが解除され、クリープ走行を開始します。必ずブレーキペダルを踏んで車両を停止させてください。

次の場合、“ピーッ”というブザーが鳴り、全車速追従機能付クルーズコントロールが自動的に解除されます。
また、マルチファンクションディスプレイに割り込み画面が表示されます。
☆72ページ参照

- 約30 km/h以下において、約30 m以内で追従走行していた先行車がいなくなったとき（このときメーター表示部の先行車表示が点滅します）
- 道路の勾配が急なとき
- ABS、VDCまたはTCSが作動したとき
- セット中に自車速が約 140km/h を超えたとき
- ハンドルを大きく回したとき
- セレクトレバーを[D]以外にしたとき
  – セレクトレバーを[D]に戻すと、再度使用することができます。

S00200

- セレクトレバーを[D]で走行中、パドルシフトを操作したとき
  – シフトポジション表示が[D]に戻ると、再度使用することができます。
- 運転席・助手席・後席のいずれかのドアを開けたとき
- 運転席のシートベルトを外したとき

- 駐車ブレーキがかかっているとき（ブレーキ警告灯が点灯しているとき）
- VDCを解除したとき（VDC OFF表示灯点灯）
  − VDCを作動可能にすると、再度使用することができます
- EyeSightが一時停止状態のとき

☆68ページ参照

- EyeSightが故障したとき（EyeSight警告灯“Eye Sight”点灯）

☆67ページ参照

警 告

滑りやすい路面では、思わぬ事故につながるおそれがありますので、全車速追従機能付クルーズコントロールを使用しないでください。

アドバイス

- EyeSightが一時停止した場合は、プリクラッシュブレーキOFF表示灯および車線逸脱警報OFF表示灯が点灯し、クルーズメインON時はメーター表示部に“E1”～“E3”が表示されます。

☆68ページ参照

  また、マルチファンクションディスプレイに割り込み画面が表示されます。

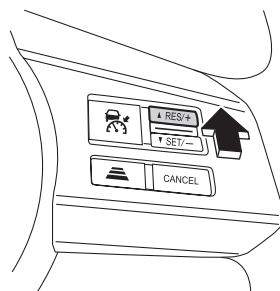
☆72ページ参照

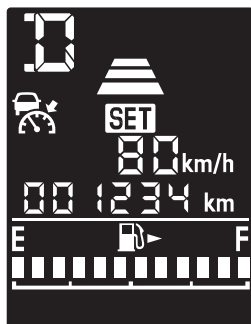
- EyeSight が故障した場合は EyeSight 警告灯、プリクラッシュブレーキOFF 表示灯および車線逸脱警報 OFF 表示灯が点灯します。また、マルチファンクションディスプレイに割り込み画面が表示されます。その場合は安全な場所に停車して、一度エンジンを止めてから再びエンジンを始動してください。この操作をしても表示が点灯し続けるときは、全車速追従機能付クルーズコントロールの使用ができません。通常走行には支障はありませんが、スバル販売店で点検を受けてください。

☆67ページ参照

- 全車速追従機能付クルーズコントロールが自動で解除されたときは、解除されたときの条件が解消されてから、再びセット操作を行ってください。条件が解消されてもセットできないときは、EyeSight の異常が考えられます。通常走行には支障ありませんが、スバル販売店で点検を受けてください。

■一時解除の復帰（セット車速の再セット）

前回のセット車速がメモリーされているとき、その車速に再びセットする場合はRES/ ＋スイッチを押します。（メーター表示部およびマルチファンクションディスプレイが再びセット状態の表示になります）

S00478

＜メーター表示部＞

S00744

＜マルチファンクションディスプレイ＞

S00770

アドバイス

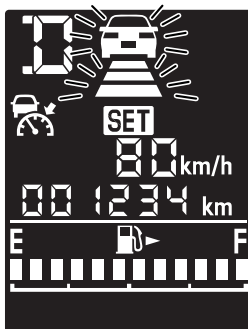
次の場合はメモリーされているセット車速が消去されます。

- （クルーズ）スイッチを押してクルーズメインOFFしたとき
- VDC、TCSが作動したとき
- 全車速追従機能付クルーズコントロールから定速クルーズコントロールに切り替えたとき

■ブレーキ踏み増し要求警報

ブレーキ踏み増し要求警報は全車速追従機能付クルーズコントロールによる追従走行中に作動します。ブレーキ制御による減速では不充分と判断した場合、運転者に注意を促す機能です。
この機能が作動すると、先行車表示が点滅し、ブザーが“ピピピ…”と鳴ります。また、マルチファンクションディスプレイに割り込み画面が表示されます。

ブレーキ踏み増し要求警報が作動した場合は、必要に応じてブレーキを踏んで減速し、適切な車間距離を確保してください。

＜メーター表示部＞

S00745

＜マルチファンクションディスプレイ＞

S00746

⚠ 警 告

- ブザーが頻繁に鳴るような状況では、全車速追従機能付クルーズコントロールを使用しないでください。
- 次の場合にはブレーキ踏み増し要求警報は作動しません。
  - アクセルペダルを踏んでいるとき
  - ブレーキペダルを踏んでいるとき
- 短い車間距離でも、次の場合にはブレーキ踏み増し要求警報は作動しないことがあります。
  - 先行車との速度差が小さいとき（ほぼ同じ速度で走っているとき）
  - 先行車の方が自車より速いとき（車間距離が次第に離れているとき）
  - 他車が至近距離に割り込んできたとき
  - 先行車が急減速したとき
  - 上り坂、下り坂が繰り返されるとき
- 料金所や渋滞の最後尾で停車中の車両や、自車速より極端に車速が遅い車両は認識が遅れて、ブレーキ踏み増し要求警報が作動しないことがあります。

プリクラッシュブレーキ

前方障害物に衝突する可能性がある場合、運転者への警報による衝突回避の支援を行います。それでも運転者の衝突回避操作がない場合、衝突の直前に自動的に急ブレーキをかけ、衝突被害を軽減または衝突を回避します。また、衝突する可能性が高い場合に運転者がブレーキペダルを踏み込んだときにブレーキアシストが作動します（プリクラッシュブレーキアシスト）。
これらの機能は、フルラップ（正面）衝突だけでなくオフセット（右または左）衝突にも対応しています。セレクトレバーがD、MまたはNのとき作動します。

⚠ 警 告

- プリクラッシュブレーキおよびプリクラッシュブレーキアシストを、日常の車両停止のためには絶対に使用しないでください。プリクラッシュブレーキはあらゆる状況で衝突を回避するものではありません。ブレーキの作動をプリクラッシュブレーキのみに頼っていると、衝突事故を起こす場合があります。
- 警報が作動した場合は前方や周囲を確認の上、運転者の判断でブレーキを踏むなどの適切な操作をしてください。
- EyeSightのプリクラッシュブレーキ機能は、主に車両への追突の回避、あるいは、追突の被害を軽減することを目的として設計しています。また、車両以外にも二輪車、自転車、歩行者を制御の対象としていますが、条件（※）によっては認識できない場合があります。横向きに停車した車両や、対向車両、バックしてくる車両、小動物や幼児、フェンス、壁や扉などに対しては作動しない可能性が高くなります。
- プリクラッシュブレーキ機能は衝突が避けられないと判断した段階で作動し、衝突直前で強いブレーキをかけるように設定していますので、その効果は様々な条件（※）により変わります。そのため、常に同じ性能が発揮できるものではありません。
- プリクラッシュブレーキが作動したとき、アクセル操作をしてもプリクラッシュブレーキを継続します。ただし、アクセルを全開に踏み込むとプリクラッシュブレーキを解除します。
- 運転者がブレーキペダルを踏んでいたり、ハンドルを操作していたりすると、その操作状態によっては運転者の回避操作として判断され、自動ブレーキが作動しない場合があります。

- 前方の車両との速度差が30 km/hより大きい場合、EyeSightの性能限界から衝突を回避することはできません。また、速度差が約30 km/h以下であっても、他の車両が急に割り込んだ場合や、視界、路面の滑りやすさなどの条件（※）の違いにより、止まりきれないことや作動しないこともあります。また、プリクラッシュブレーキアシストも同様に条件（※）の違いにより作動しないことがあります。

※条件

- 前方車両との速度差、車間距離、接近の状態、横方向のずれ具合（オフセット量）
- 車両の状態（積載量、乗員など）
- 路面の状態（勾配、滑りやすさ、形状、凹凸など）
- 前方の視界が悪いとき（雨、雪、霧、煙など）
- 対象物が次の場合
  - 家畜や動物（例えば、鹿や犬）など
  - ガードレール、電柱、木、フェンスや壁など
- 対象物が二輪車、自転車、歩行者であっても、周囲の明るさ、動きや姿勢、角度などによって、制御対象とシステムが認識できない場合
- 運転者の操作状態（アクセル、ブレーキ、ハンドルなど）から運転者が衝突回避操作をしたと判断したとき
- 車両の整備状態（ブレーキ関係、タイヤの摩耗、空気圧、スペアタイヤなど）
- トレーラーや車両などをけん引しているとき
- 外気温が低いときや走行開始直後などでブレーキが冷えているとき
- 下り坂などでブレーキが過熱してブレーキの効きが悪くなっているとき
- 水たまり走行後や洗車後などブレーキが濡れてブレーキの効きが悪くなっているとき
- ステレオカメラの認識状態

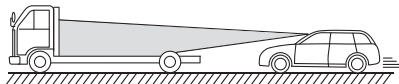
特に次の場合は止まりきれないことや、作動しない可能性が高くなります。

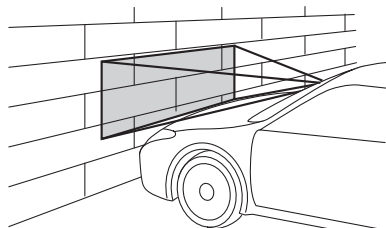
- 悪天候（強い雨、吹雪、濃霧）のとき
- 先行車や対向車両の水、雪、土埃などの巻き上げや水蒸気、砂、煙が舞い、視界が充分でないとき
- 夜間またはトンネル内でヘッドランプを点灯していないとき
- 夜間またはトンネル内で先行車のテールランプが点灯していないとき
- 夜間の二輪車、自転車、歩行者に対する接近
- 夕方、朝方の薄暗いとき
- ヘッドランプ照射範囲外に車、二輪車、自転車、歩行者が存在するとき
- 前方から強い光（太陽光などによる逆光やヘッドランプのハイビーム光など）を受けたとき

次ページへ ⇒

⇒前ページより

・フロントガラスに曇りや雪、汚れ、霜、土埃が付着しているとき
・ウインドゥウォッシャーの使用中または使用後で、フロントガラスが充分に拭き取れていないとき
・雨滴やウインドゥウォッシャーの水滴、またはワイパーブレードがステレオカメラの視野を遮ることにより、対象物の認識が不完全になったとき
・ルーフ上に積載したカヌーなどがステレオカメラの視界を遮っているとき

・前方車両の最後面が小さい、低い、または凹凸があるとき（最後面ではない部分を認識して作動を判断することもあります）
　・荷台にあおりがない空荷のトラックなど
　・後端から積荷が飛び出している車両など
　・特殊な形状の車両（キャリアカー、サイドカーなど）
　・車高の低い車両など

S00654

・停車している車両の前に壁などがあるとき
・車両の近くに別の物体があるとき
・横向きに停車した車両など
・対向車両やバックしてくる車両など
・大きさや高さがステレオカメラ認識限界より小さいとき
　・小動物や幼児など
　・しゃがんでいる人や横たわっている人など
・対象物がフェンスや壁、シャッターなどのとき
・対象物がガラスや鏡の壁や扉などのとき

S00653

・先行車が急ハンドル、急加速、急減速したとき
・車、二輪車、自転車、歩行者が横から割り込んだり、飛び出してきたとき
・自車が車線変更を行い、先行車のすぐ後ろに接近したとき
・自車バンパーの極めて近い位置に車、二輪車、自転車、歩行者が存在するとき
・速度差が約5 km/h以下の場合（接近してから制御を行うため、対象物の形状・大きさによっては最後面がカメラの視野範囲から外れる場合があります）

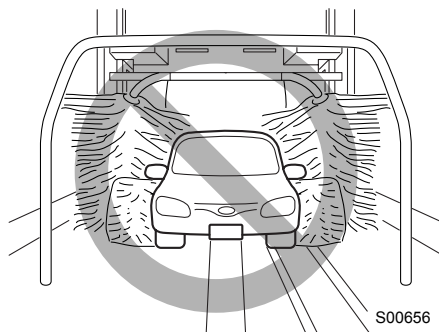
・急カーブ、急な上り坂、急な下り坂の場合
・路面にうねりや未舗装などで凹凸があるとき
・トンネルの出入り口を通過するとき

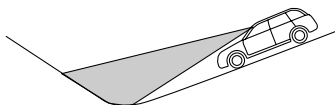
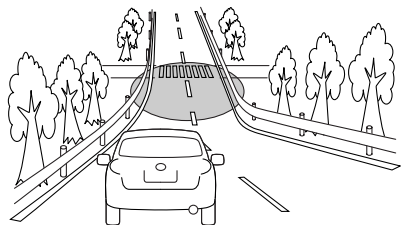
- 安全のため、お客様ご自身でプリクラッシュブレーキの作動テストを行わないでください。
- 次の状況では、システムが正しく動作しません。プリクラッシュブレーキ機能をOFFにしてください。また、全車速追従機能付クルーズコントロールを使用しないでください。

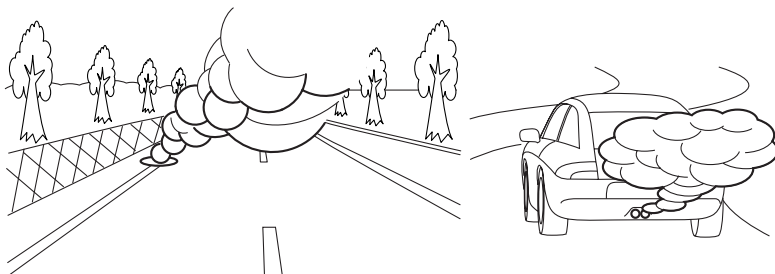
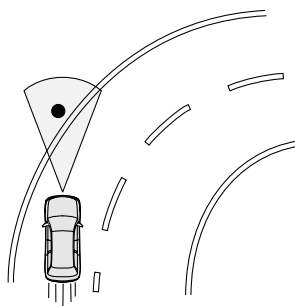
－ タイヤの空気圧が適正でないとき※
－ 応急用スペアタイヤを装着しているとき※
－ 摩耗したタイヤまたは摩耗差の著しいタイヤを装着しているとき※
－ 指定サイズ以外のタイヤを装着しているとき※
－ パンク修理キットで応急修理をしたとき
－ サスペンションを改造したとき
－ タイヤチェーンを装着しているとき
－ ヘッドランプが汚れていたり光軸がずれているとき（対象物を正しく照射できず認識しづらい）
－ 事故や故障で自車の走行が不安定なとき
－ ブレーキ警告灯が点灯しているとき
－ 重い荷物を積んで車が傾いているとき
－ 定員を超えているとき

※ ホイールおよびタイヤは大変重要な役割を果たしていますので、適正なものを使用してください。
詳細は「インプレッサ取扱説明書」を参照してください。

⚠ 注 意

- 次のような場合は、必ずプリクラッシュブレーキをOFFにしてください。プリクラッシュブレーキが予期しない作動をする可能性があります。
  - けん引されるとき
  - キャリアカーに積載するとき
  - シャシーダイナモメーターやフリーローラーなどを使用するとき
  - リフトアップし、エンジンをかけタイヤを空転させるとき
  - 垂れ幕や旗、垂れ下がった枝、草むらなどに触れながら通過するとき
  - サーキットなどでスポーツ走行するとき
  - 車両が移動するタイプの洗車機を使用するとき

S00656

- 次のような場合は、プリクラッシュブレーキが作動することがありますので安全運転に努めてください。
  - ETCゲートなどを規定速度を超えるような速度で通過するとき
  - 前車に接近して走行するとき
  - 路面の勾配が急に変化する場所を走行するとき

S00705

ー 水蒸気や煙のかたまりを通過するとき
ー 寒いときなど先行車が排出した排気ガスがはっきり見えるとき

ー カーブや交差点に障害物があるとき

ー 車両や障害物の横すれすれを通過するとき
ー 前方の壁や車両すれすれに停車するとき

- フロントバンパー先端より前方に突出した用品を装着したり荷物を積載をした場合、車両の長さが長くなるため、衝突を回避できないことがあります。
- 自動ブレーキ中にブレーキペダルを踏んだとき、ペダルが固く感じられることがありますが、異常ではありません。さらに踏み込むとブレーキを踏み増しできます。

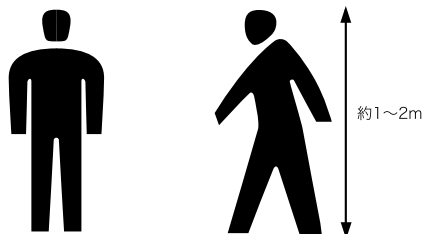
アドバイス

- プリクラッシュブレーキ OFF 表示灯が点灯しているときは、プリクラッシュブレーキは作動しません。

☆45ページ参照

- 自動ブレーキ中に音が聞こえることがありますが制御によるものであり、異常ではありません。

■歩行者認識について

EyeSightは歩行者を認識します。歩行者認識は対象物の大きさや形状、動きから行っています。頭部、両肩の輪郭が明瞭で左右のバランスが対称であるときに認識します。

S00658

⚠ 警告

EyeSightのプリクラッシュブレーキ機能は、歩行者も制御対象としていますが、条件によってはシステムが認識できない場合があります。特に、次の状況では、歩行者を制御対象と認識できない可能性が高くなります。

- 集団で歩いている
- 壁際や別の障害物のそばにいる
- 傘などをさしている
- 背景と似た色合いで背景に溶け込んでいる
- 大きな荷物を持っている
- 前かがみになっている、しゃがんでいる、横たわっている
- 暗い場所にいる
- 横から割り込んできたり、飛び出してきた

プリクラッシュブレーキの作動

走行中、前方に障害物があるとき、以下の順にシステムが作動し、運転者への注意喚起とブレーキ制御を行います。ブレーキ制御中は制動灯が点灯します。

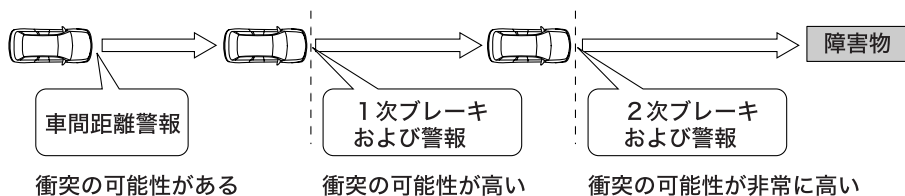
①車間距離警報：

衝突の可能性があると判断した場合に、“ピピピ…”というブザーとメーター表示部およびマルチファンクションディスプレイの表示で注意を促します。
車間距離警報は全車速追従機能付クルーズコントロールをセットしていないときに作動します。ブレーキペダルを踏んで減速し、適切な車間距離をとると解除します。

②1次ブレーキおよび警報：

走行時に前方障害物に衝突する可能性が高いと判断した場合、“ピピピ…”というブザーとメーター表示部およびマルチファンクションディスプレイの表示で注意を促し、ブレーキ制御を行います。運転者の衝突回避操作（ブレーキペダル、ハンドルなど）の操作量により、衝突する可能性が低くなったと判断した場合、作動を解除します。

③2次ブレーキおよび警報：

さらに衝突する可能性が非常に高いと判断した場合、“ピーー…”というブザーに変わり、1次ブレーキより強くブレーキ制御を行います。その後、運転者による衝突回避操作の有無にかかわらず、衝突が回避できないと判断した場合、ブレーキ制御を継続します。
停止すると“ピッ、ピッ、ピッ、ピー”というブザーが鳴り、停止してから約2秒後にゆっくりと自動ブレーキが解除され、クリープ走行を開始します。

	自動ブレーキの強さ	メーター表示部	マルチファンクションディスプレイ	ブザー
車間距離警報	ブレーキ制御なし	（点滅）	前方注意	ピピピ…
１次ブレーキおよび警報	弱い			ピピピ…
２次ブレーキおよび警報	強い			ピーー…

S00747

⚠ 注 意

EyeSight警告灯（Eye Sight）が点灯もしくは点滅、またはEyeSightが一時停止しているときは、プリクラッシュブレーキは作動しません。

アドバイス

次の場合、プリクラッシュブレーキの1次ブレーキおよび2次ブレーキは作動しません。
- 自車速が約1km/h以下または約140km/h以上のとき
- VDCが作動しているとき

プリクラッシュブレーキアシストの作動

プリクラッシュ 1次ブレーキ作動後（前方障害物に衝突する可能性が高いと判断後）、運転者がブレーキペダルを踏み込んだとき、緊急制動と判断し、ブレーキアシストが作動します。

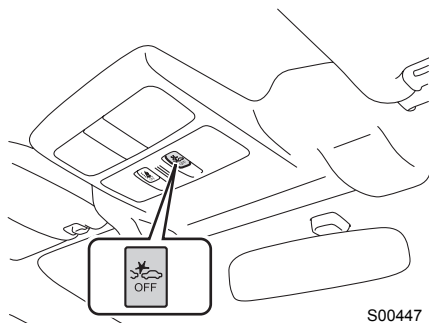
⚠ 注 意

車間距離警報だけ作動している状態で運転者がブレーキペダルを踏んでも、プリクラッシュブレーキアシストは作動しません。（運転者による通常の制動力で減速します。）

アドバイス

- プリクラッシュブレーキアシストは、自車速が約 10km/h 以下または約140km/h以上のときは作動しません。
- ブレーキアシスト機能については「インプレッサ取扱説明書」を参照してください。

プリクラッシュブレーキをOFFにするとき

プリクラッシュブレーキOFFスイッチを約2秒以上押し続けると、プリクラッシュブレーキ（プリクラッシュブレーキアシストも含む）がOFFになります。OFFにすると、メーター内のプリクラッシュブレーキOFF表示灯が点灯します。
ONに戻すときは再度プリクラッシュブレーキOFFスイッチを押し続けてください。ONにすると、プリクラッシュブレーキOFF表示灯が消灯します。

アドバイス

- プリクラッシュブレーキをOFFにすると、AT誤発進抑制制御もOFFになります。
- プリクラッシュブレーキをOFFにしても、エンジンスイッチをOFFにし、再度エンジンを始動するとプリクラッシュブレーキはONになります。

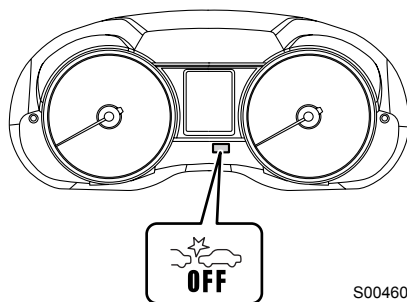
■プリクラッシュブレーキOFF表示灯

エンジンスイッチをONにすると点灯し、エンジン始動後約7秒後に消灯します。
プリクラッシュブレーキをOFFにすると点灯します。

また、次の場合にも点灯します。
- VDC OFFスイッチを押してVDCを解除したとき
- EyeSightが故障したとき

☆67ページ参照

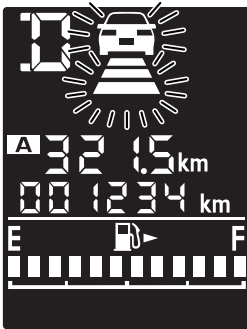
- EyeSightが一時停止したとき

☆68ページ参照

AT誤発進抑制制御

前方に障害物を認識している場合、停車または徐行状態から、ペダルの踏み間違いなどによりアクセルペダルが必要以上に踏み込まれたとシステムが判断したとき、エンジン出力を制限し発進をゆるやかにします。

S00461

AT 誤発進抑制制御が作動すると、ブザーが“ピピピ・・・”と鳴り、メーター表示部の先行車表示と車間設定表示が点滅します。また、マルチファンクションディスプレイに割り込み画面が表示されます。
この機能はセレクトレバーが[D]または[M]のとき作動します。

<メーター表示部>

S00748

<マルチファンクションディスプレイ>

S00746

⚠ 警告

AT誤発進抑制制御を過信しないでください。AT誤発進抑制制御は衝突を回避するものではありません。発進時はセレクトレバーやペダルの位置および周囲の安全を充分に確認して操作してください。AT 誤発進抑制制御のみに頼っていると、思わぬ事故につながるおそれがあります。

- AT誤発進抑制制御は停止状態を保つものではありません。
- AT 誤発進抑制制御はあらゆる状況で発進を緩やかにするものではありません。また、衝突を回避するものではありません。
- AT 誤発進抑制制御は前方に障害物を認識している場合に作動するものであり、崖など対象物が見えない状況で発進を緩やかにするものではありません。

- 故意に対象物の近くでアクセルペダルを過剰に踏み込まないでください。アクセルの調節をAT誤発進抑制制御のみに頼っていると衝突事故を起こす場合があります。
- 万一、自車が踏切内で閉じ込められた場合、ステレオカメラが遮断機を対象物と認識し、AT誤発進抑制制御が作動することがあります。遮断機を押しのけて進む場合は、慌てずにアクセルペダルを踏み続けるか、AT誤発進抑制制御をOFFにしてください。

☆50ページ参照

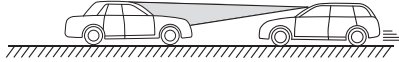
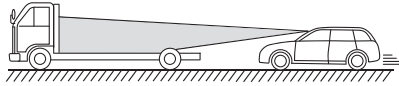
- 次の条件の違いにより作動しないことがあります。
  - 対象物との距離、速度差、横方向のずれ具合（オフセット量）
  - ステレオカメラの認識状態
    特に次の場合は作動しない可能性が高くなります。
    ・悪天候（強い雨、吹雪、濃霧）のとき
    ・砂や煙が舞い、視界が充分でないとき
    ・夕方、朝方の薄暗いときや、夜間に対象物に接近するとき
    ・屋内の駐車場など暗い場所で対象物に接近するとき
    ・ヘッドランプ照射範囲外に対象物が存在するとき
    ・前方から強い光（太陽光などによる逆光やヘッドランプのハイビーム光など）を受けたとき

    ・フロントガラスに曇りや雪、汚れ、霜、土埃が付着しているとき
    ・ウインドゥウォッシャーの使用中または使用後で、フロントガラスが充分に拭き取れていないとき
    ・雨滴やウインドゥウォッシャーの水滴、またはワイパーブレードがステレオカメラの視野を遮ることにより、対象物の認識が不完全になったとき
    ・ルーフ上に積載したカヌーなどがステレオカメラの視界を遮っているとき

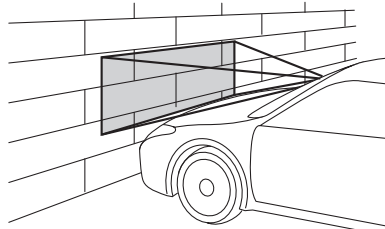
    ・対象物の高さが低いとき（低い壁、低いガードレール、車高の低い車両など）
    ・対象物の大きさがステレオカメラの認識限界より小さいとき
      ・小動物や幼児など
      ・しゃがんでいる人や横たわっている人など

次ページへ ⇒

⇒前ページより

・対象物や前方車両（トレーラーや対向車両など）の最後面が小さいときや、接近しすぎたとき（最後面ではない部分を認識して作動し効果が充分でないこともあります）

S00771

・対象物がフェンス、均一な模様（縞模様やレンガなど）や模様の全くない壁やシャッターなどのとき

・対象物がガラスや鏡の壁や扉などのとき

S00653

・車、二輪車、自転車、歩行者などの対象物が横から割り込んだり、飛び出してきたとき

・発進時に自車が進路変更を行い、対象物のすぐ後ろに接近したとき

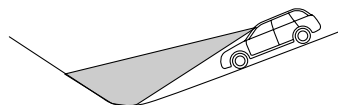
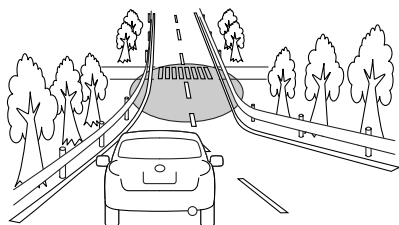
・急カーブ、急な上り坂、急な下り坂のとき

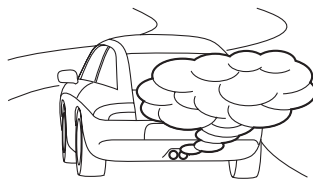
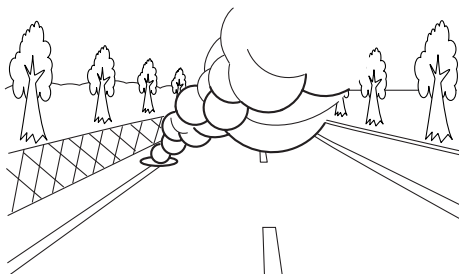
－ 運転者のハンドル操作状態から運転者が衝突回避操作をしたと判断したとき

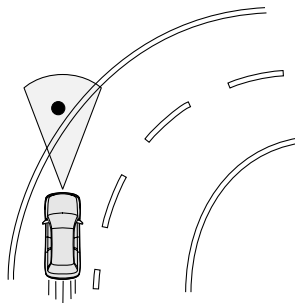
- 安全のため、お客様ご自身でAT誤発進抑制制御の作動テストを行わないでください。

⚠ 注 意

- 次のような場合は、必ずAT誤発進抑制制御をOFFにしてください。AT誤発進抑制制御が予期しない作動をする可能性があります。
  - － けん引されるとき
  - － キャリアカーに積載するとき
  - － シャシーダイナモメーターやフリーローラーなどを使用するとき
  - － リフトアップし、エンジンをかけタイヤを空転させるとき
  - － 垂れ幕や旗、垂れ下がった枝、草むらなどに触れながら通過するとき
  - － サーキットなどでスポーツ走行するとき

- 次のような場合は、AT 誤発進抑制制御が作動することがありますので安全運転に努めてください。
  - 前車に接近して走行するとき
  - ETCゲートなどを規定速度を超えるような速度で通過するとき
  - 路面の勾配が急に変化する場所を走行するとき

S00705

  - 水蒸気や煙のかたまりを通過するとき

S00652

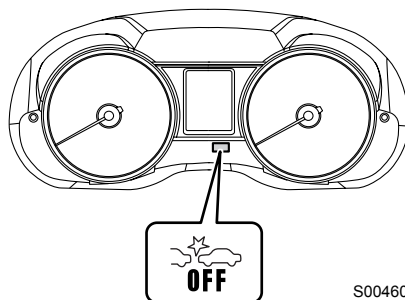
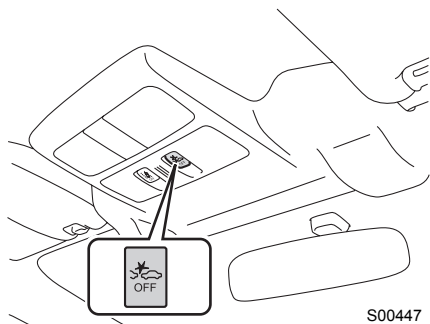
  - カーブや交差点に障害物があるとき

S00657

  - 車両や障害物の横すれすれを通過するとき
  - 前方の壁や車両すれすれに停車するとき

アドバイス

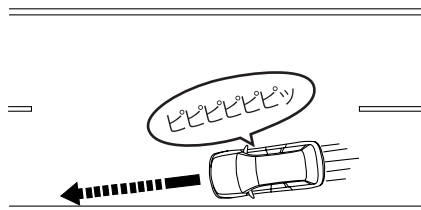
プリクラッシュブレーキOFF表示灯が点灯しているときは、AT誤発進抑制制御は作動しません。
☆45ページ参照

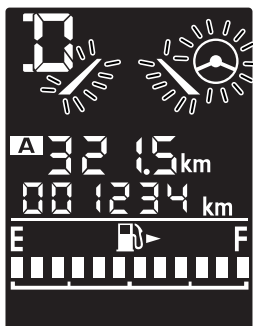
AT誤発進抑制制御をOFFにするとき

プリクラッシュブレーキ OFF スイッチを約 2 秒以上押し続けると、AT 誤発進抑制制御がOFFになります。OFFにすると、メーター内のプリクラッシュブレーキOFF表示灯が点灯します。
ONに戻すときは再度プリクラッシュブレーキOFFスイッチを押し続けてください。ONにすると、プリクラッシュブレーキOFF表示灯が消灯します。
☆45ページ参照

アドバイス

- AT誤発進抑制制御をOFFにするとプリクラッシュブレーキもOFFになります。
- AT誤発進抑制制御をOFFにしても、エンジンスイッチをOFFにし、再度エンジンを始動するとAT誤発進抑制制御はONになります。

車線逸脱警報

車速が約 40 km/h 以上のときに車線を逸脱しそうになると注意を促します。
車線逸脱警報が作動するとブザーが“ピピピピピピッ”と鳴り、メーター表示部のハンドル表示と左右の車線表示が同時に点滅します。また、マルチファンクションディスプレイに割り込み画面が表示されます。

S00422

＜メーター表示部＞

S00749

＜マルチファンクションディスプレイ＞

S00750

ふらつき警報が作動した後も、ふらつきが収まらない場合は、車線逸脱警報が通常より早いタイミングで作動します。
☆54ページ参照

⚠ 警 告

車線逸脱警報はあらゆる状況で作動するものではありません。また、逸脱を自動的に回避するものでもありません。車線の維持を車線逸脱警報のみに頼っていると、車線逸脱による事故につながるおそれがあります。
車線逸脱警報は車線（区画線）を認識している場合に警報するものであり、路肩や側溝など道路の端を認識して警報する機能ではありません。

⚠ 注 意

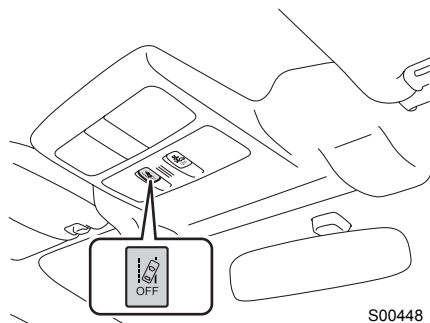
次の場合、車線逸脱警報は作動しないまたは作動しにくい場合があります。
- 自車の速度が約40 km/h未満のとき
- 一度車線逸脱警報を行った後の約7秒間
- ハンドルを大きくまたは速く切ったとき
- ブレーキペダルを踏んでいるとき
- アクセルペダルを踏んで加速しているとき
- 先行車との車間距離が短いとき
- 方向指示器作動中とレバーを戻した後の約7秒間
- 車線逸脱警報作動後、車線の内側に戻っていないとき
- 車線の幅が狭いとき
- 車線がステレオカメラの認識性能から見て認識しづらいとき
  - 区画線(白線など)がないまたは消えかかっている
  - 区画線の色が路面の色と似ていて見えにくい
  - 区画線の幅が細いなど
- 先行車が障害物を避けるため回避行動をとり、それに続いて自車もハンドル操作を行ったとき

アドバイス

- 次の場合、車線を誤って認識し、車線逸脱警報が作動することがあります。
  - 濡れた路面や積雪路でのタイヤの跡など
  - 雪とアスファルトの境目や道路の補修跡など
  - 二重車線など
  - ガードレールの影など
- 車線逸脱警報OFF表示灯が点灯しているときは、車線逸脱警報は作動しません。

☆53ページ参照

車線逸脱警報をOFFにするとき

車線逸脱警報OFFスイッチを約２秒以上押し続けると、車線逸脱警報がOFFになります。OFFにすると、メーター内の車線逸脱警報OFF表示灯が点灯します。
ONに戻すときは再度車線逸脱警報OFFスイッチを押し続けてください。ONにすると、車線逸脱警報OFF表示灯が消灯します。

アドバイス

- 車線逸脱警報をOFFにすると、ふらつき警報もOFFになります。
- エンジンスイッチを OFF にし、再度エンジンを始動しても、エンジンスイッチをOFFにする前の状態を保ちます。

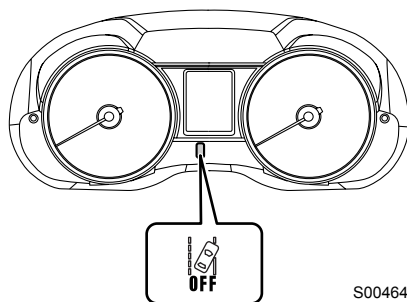
■車線逸脱警報OFF表示灯

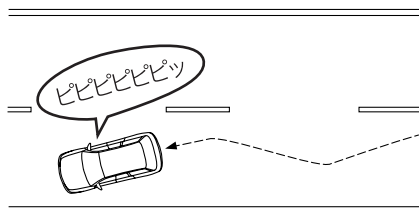
エンジンスイッチをONにすると点灯し、エンジン始動後約7秒後、現在の状態（ONまたはOFF）に応じて消灯または点灯します。
車線逸脱警報をOFFにすると点灯します。

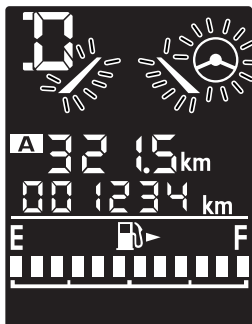
また、次の場合にも点灯します。
- VDC OFFスイッチを押してVDCを解除したとき
- EyeSightが故障したとき

☆67ページ参照

- EyeSightが一時停止したとき

☆68ページ参照

ふらつき警報

車線内での車両の蛇行パターンからふらつきを認識し注意を促します。ふらつき警報が作動するとブザーが“ピピピピピピッ”と鳴り、メーター表示部のハンドル表示が点滅し、車線表示が左右交互に点滅します。また、マルチファンクションディスプレイに割り込み画面が表示されます。
車速が約50 km/h以上で作動します。

S00423

＜メーター表示部＞

S00749

＜マルチファンクションディスプレイ＞

S00751

⚠ 警 告

ふらつき警報はあらゆる状況で作動するものではありません。また、ふらつきを自動的に修正するものでもありません。自車がふらつかないようにすることをふらつき警報のみに頼っていると、思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠ 注 意

次の状況では、作動しない場合があります。
- カーブが連続する道を走行しているとき
- 車速が大きく変動するとき
- 車線変更をした直後のとき
- 車線がステレオカメラの認識性能から見て認識しづらいとき
  - 区画線(白線など)がないまたは消えかかっている
  - 区画線の色が路面の色と似ていて見えにくい
  - 区画線の幅が細いなど

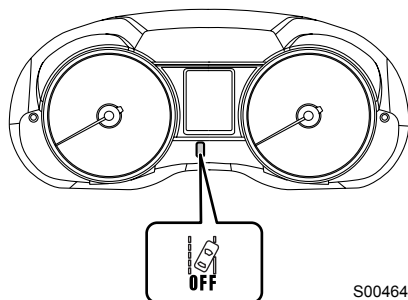
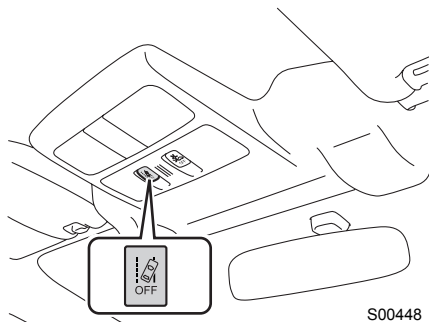
アドバイス

- ふらつきは過去数分間の走行データをもとに認識しています。ふらつきはじめてもすぐには認識できません。また、ふらつきが収まったあともしばらくふらつき警報の作動が続くことがあります。
- ふらつき警報はつかれた時やよそ見など運転への集中度が落ちたときにも警報を行うことがあります。必要に応じてこまめに休憩をとることをお奨めします。
- 車線逸脱警報OFF表示灯が点灯しているときは、ふらつき警報は作動しません。

☆53ページ参照

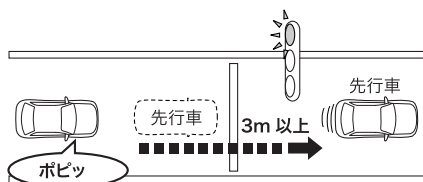
ふらつき警報をOFFにするとき

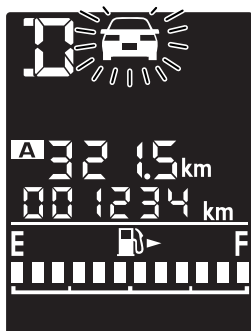
車線逸脱警報 OFF スイッチを約 2 秒以上押し続けると、ふらつき警報が OFF になります。OFFにすると、メーター内の車線逸脱警報OFF表示灯が点灯します。
ONに戻すときは再度車線逸脱警報OFFスイッチを押し続けてください。ONにすると、車線逸脱警報OFF表示灯が消灯します。

☆53ページ参照

アドバイス

- ふらつき警報をOFFにすると、車線逸脱警報もOFFになります。
- エンジンスイッチを OFF にし、再度エンジンを始動しても、エンジンスイッチをOFFにする前の状態を保ちます。

先行車発進お知らせ

先行車の発進後、自車が停止し続けた場合、ブザーと表示でお知らせします。先行車に続いて停車（車間距離が約10 m以内、かつ自車がしばらく停車）すると先行車を認識し続け、先行車が発進して約3 m以上 進んでも自車が発進しないときに作動します。
この機能はセレクトレバーがD、MまたはNのとき作動します。
この機能が作動すると“ポピッ”というブザーが鳴り、メーター表示部の先行車表示が点滅します。また、マルチファンクションディスプレイに割り込み画面が表示されます。

S00676

＜メーター表示部＞

S00752

＜マルチファンクションディスプレイ＞

25℃　A 15.0km/l　10:00

先行車が発進しました

S00753

アドバイス

- 先行車発進お知らせ機能の作動あり / 作動なしの設定を変更することができます。

☆70ページ参照

- 次のような状況では、先行車が発進していなくても先行車発進お知らせが働いてしまう場合や、先行車が発進していても先行車発進お知らせが働かない場合があります。
  - 停止した先行車との間にオートバイなどが割り込んできたとき
  - 天候や道路形状などにより、先行車を認識できないとき
  - ステレオカメラが先行車を見失ったとき
  - セレクトレバーがD、NまたはMで運転者がブレーキペダルを踏んでいないときは、作動しません。

定速クルーズコントロール

定速クルーズコントロールについて

定速クルーズコントロールは、高速道路や自動車専用道路でのドライブをより快適に行っていただくための運転支援システムです。運転者が設定した車速（約 40km/h ～ 100km/h）を保ちながら、一定の速度で走行することができます。

⚠ 警 告

- 定速クルーズコントロール中は車間距離を保つ追従走行を行いません。先行車との車間距離、周囲の状況に応じてブレーキペダルを踏んで減速するなどして車間距離を確保し、安全運転を心がけてください。
- 次のような状況では、思わぬ事故につながるおそれがありますので定速クルーズコントロールを使用しないでください。
  - 交通量の多い道や急カーブのある道
    道路状況にあった速度で走行できないため事故につながるおそれがあります。
  - 凍結路や積雪路など滑りやすい路面
    タイヤが空転し、車のコントロールを失うおそれがあります。
  - 急な下り坂
    セット車速を超えてしまう場合があります。
  - 急な下り坂が続く場合
    ブレーキが過熱するおそれがあります。

⚠ 注 意

クルーズコントロールを使用するときは、全車速追従機能付クルーズコントロール、定速クルーズコントロールのどちらのクルーズコントロールが選択されているかを画面の表示で必ず確認してください。

	メーター表示部	マルチファンクションディスプレイ
全車速追従機能付クルーズコントロール		
定速クルーズコントロール		

S00754

アドバイス

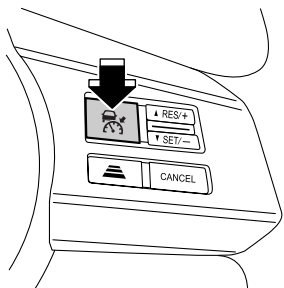
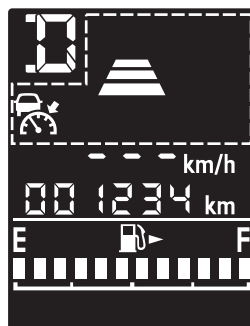
- （クルーズ）スイッチを押すと、全車速追従機能付クルーズコントロールになります。
- クルーズコントロールを切り替えるときは、（車間設定）スイッチを約2秒以上押し続けます。
  （クルーズメイン ON で全車速追従機能付クルーズコントロールおよび定速クルーズコントロールをセットしていないときのみ有効）
- EyeSightが一時停止中でも、定速クルーズコントロールは使用できます。

定速クルーズコントロールの使用方法

定速クルーズコントロールは、次の条件を全て満たすとセットできます。

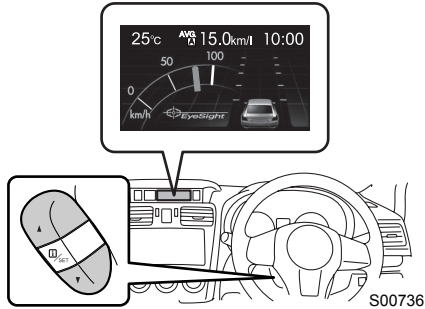
- セレクトレバーがDに入っている
- ブレーキペダルを踏んでいない
- 自車速が約40km/h～100km/hのとき

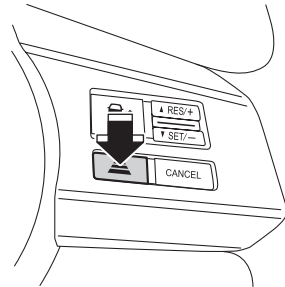
■定速クルーズコントロールをセットするとき

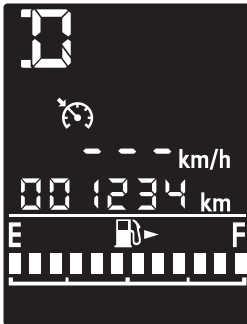
① 全車速追従機能付クルーズコントロールをスタンバイさせます。
（クルーズ）スイッチを押します。全車速追従機能付クルーズコントロールが ON になり、メーター内のEyeSight表示部に“ ”（追従クルーズ表示）と“ ”（車間設定表示）が表示されます。また、トリップメーターがセット車速表示に切り替わり、“- - - km/h”が表示されます。
（クルーズ）スイッチを押したときは常に全車速追従機能付クルーズコントロールとして起動します。

S00734

S00755

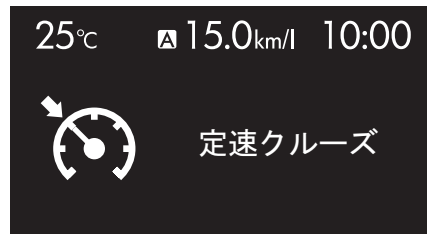
スイッチをもう一度押すとOFFになり、EyeSight表示部の表示が消灯します。エンジンを止めたときも自動的にOFFになります。

アドバイス

（クルーズ）スイッチを押してクルーズメイン ON にすると、マルチファンクションディスプレイの表示がアイサイト画面に切り替わります。
3 連メーターや時計表示に戻すときは、ハンドルの▲▼スイッチを手前に引きます。

S00736

② 定速クルーズコントロールに切り替えます。
（車間設定）スイッチを約2秒以上押し続けて全車速追従機能付クルーズコントロールから定速クルーズコントロールに切り替えます。切り替わると“ピッ”というブザーが鳴ります。
このときメーター表示部の車間設定表示が消灯し、“ ”（定速クルーズ表示）が表示され、同時にマルチファンクションディスプレイの画面が切り替わります。

S00741

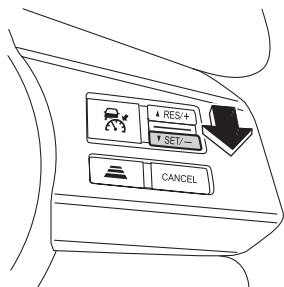
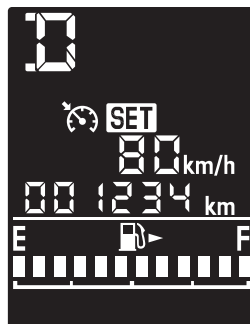
<メーター表示部>

S00756

<マルチファンクションディスプレイ>

S00757

③ アクセルペダルを加減して希望する速度にします。

次ページへ ⇒

⇒前ページより

④希望する速度になったら、SET/−スイッチを押します。
スイッチを押したときの車速がセット車速となり、定速走行します。
メーター表示部にSET表示が表示されます。

S00480

S00758

⚠ 警告

定速クルーズコントロール作動中は、ブレーキ踏み増し要求警報は作動しません。

⚠ 注意

定速クルーズコントロールでは、先行車に合わせたアクセル、ブレーキ制御を行いません。必要に応じてアクセル、ブレーキ操作をしてください。

アドバイス

- セット車速は40km/h〜100km/hの範囲で設定できます。
- 定速クルーズのとき、マルチファンクションディスプレイにセット車速は表示されません。
- 下り坂などでは、セット車速を保つため定速クルーズコントロールの制御によりブレーキが作動することがあります。
- 全車速追従機能付クルーズコントロールに戻したいときは、定速クルーズコントロールを解除して、(車間設定)スイッチを約2秒間押し続けます。

■セット車速を上げるとき

●RES/＋スイッチによる方法

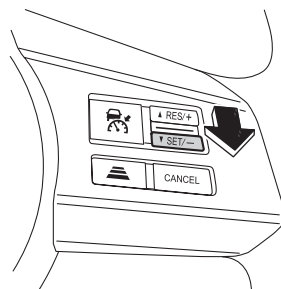
S00478

- RES/＋スイッチを1回ずつ押す
  押す毎にセット車速が 5 km/h ずつ上がります。
- RES/＋スイッチを押し続ける
  押している間、セット車速が1 km/hずつ上がります。

スイッチを操作するごとにメーター表示部のセット車速が変わります。

●アクセルペダルによる方法

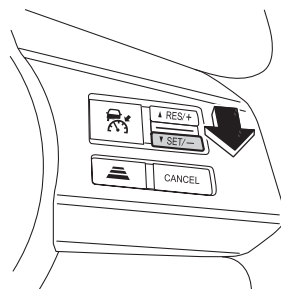
S00480

アクセルペダルを踏み、速度を上げます。
希望の速度になったら SET/ ースイッチを押します。スイッチを押したときの車速にセットされ、メーター表示部に新しいセット車速が表示されます。

■セット車速を下げるとき

●SET/ースイッチによる方法

S00480

- SET/ースイッチを1回ずつ押す
  押す毎にセット車速が 5 km/h ずつ下がります。
- SET/ースイッチを押し続ける
  押している間、セット車速が1 km/hずつ下がります。

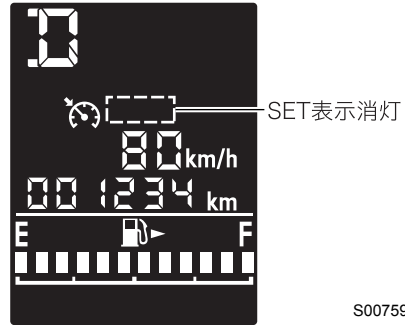
スイッチを操作するごとにメーター表示部のセット車速が変わります。

●ブレーキペダルによる方法

ブレーキペダルを踏み、速度を下げます。（定速クルーズコントロールが解除されます。）
希望の速度になったらSET/ースイッチを押します。スイッチを押したときの車速にセットされ、メーター表示部に新しいセット車速が表示されます。

■一時的に加速したいとき

一時的に加速したいときは、アクセルペダルを踏みます。
アクセルペダルを離すと、セット車速まで戻ります。

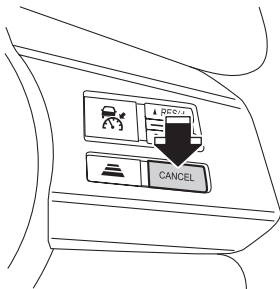
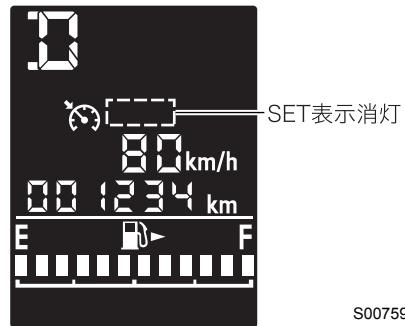
■一時的に減速したいとき

一時的に減速するときは、ブレーキペダルを踏みます。
このとき、定速クルーズコントロールは解除されます。メーター表示部のセット車速はそのまま表示され、セット待機状態になります(SET 表示消灯)。セット車速に再びセットする場合はRES/＋スイッチを押します。

S00759

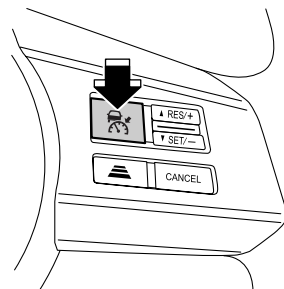
■解除のしかた

●運転者の操作による解除

- CANCEL（キャンセル）スイッチを押す。
- ブレーキペダルを踏む。

メーター表示部のセット車速はそのまま表示され、セット待機状態になります（SET 表示消灯）。

S00742

S00759

- (クルーズ) スイッチを押す

メーター内のEyeSight表示部が消灯し、定速クルーズコントロールがOFFになります。

S00734

●システムによる自動解除

次の場合、“ピーッ”とブザーが鳴り、定速クルーズコントロールが自動的に解除されます。

- セレクトレバーを[D]以外にしたとき
  − セレクトレバーを[D]に戻すと、復帰します。
- セレクトレバーが[D]で走行中、パドルシフトを操作したとき
  − シフトポジション表示が[D]に戻ると、再度使用することができます。
- VDCを解除したとき（VDC OFF表示灯点灯）
  − VDCを作動可能にすると、再度使用することができます。
- 自車速が約30 km/h以下になったとき（急な登り坂など）
- 自車速が約140 km/h以上になったとき（急な下り坂など）
- ABS、VDCまたはTCSが作動したとき
- 運転席・助手席・後席のいずれかのドアを開けたとき
- 運転席のシートベルトを外したとき
- 駐車ブレーキがかかっているとき（ブレーキ警告灯が点灯しているとき）
- EyeSightに異常があるとき（67ページの「EyeSightの故障および一時停止」参照）
- ハンドルを大きく回したとき
- 道路の勾配が急なとき

⚠ 警告

滑りやすい路面では、思わぬ事故につながるおそれがありますので、定速クルーズコントロールを使用しないでください。

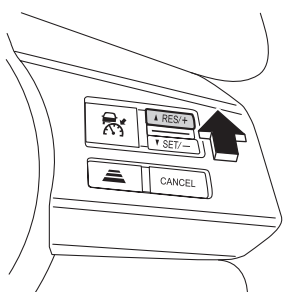
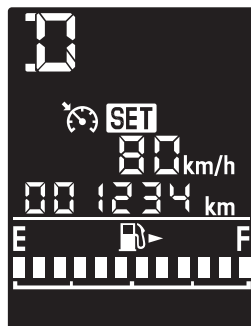
アドバイス

- EyeSight が故障した場合は EyeSight 警告灯、プリクラッシュブレーキ OFF 表示灯および車線逸脱警報 OFF 表示灯が点灯します。また、マルチファンクションディスプレイに割り込み画面が表示されます。その場合は安全な場所に停車して、一度エンジンを止めてから再びエンジンを始動してください。この操作をしても表示が点灯し続けるときは、定速クルーズコントロールの使用ができません。通常走行には支障はありませんが、スバル販売店で点検を受けてください。

☆67ページ参照

- 定速クルーズコントロールが自動で解除されたときは、解除されたときの状態が解消されてから、再びセット操作を行ってください。状態が解消されてもセットできないときは、EyeSight の異常が考えられます。通常走行には支障ありませんが、スバル販売店で点検を受けてください。

■一時解除の復帰（セット車速の再セット）

前回のセット車速がメモリーされているとき、その車速に再びセットする場合はRES/＋スイッチを押します。（メーター表示部が再びセット状態の表示になります。）
前回のセット車速がメモリーされている場合、車速約30 km/h以上のときにセットできます。

S00478

S00758

アドバイス

- 次の場合はメモリーされているセット車速が消去されます。
  – （クルーズ）スイッチを押してクルーズメインOFFしたとき
  – VDC、TCSが作動したとき
  – 定速クルーズコントロールから全車速追従機能付クルーズコントロールに切り替えたとき
- 約40 km/h～100 km/hの範囲でセットされた車速で定速走行します。
- メモリー車速（前回のセット車速）が無い場合、RES/＋スイッチではセットできません。

ブザー音一覧

ブザー音	状態	参照先
ピーー…	プリクラッシュブレーキ： 2次ブレーキおよび警報が作動したとき	☆43ページ参照
ピッ、ピッ、 ピッ、ピー	プリクラッシュブレーキ： 2 次ブレーキおよび警報で停止後、自動ブレーキが解除されるとき	☆43ページ参照
	全車速追従機能付クルーズコントロール： 先行車の停止に伴い自車も停止し、停止後自動ブレーキが解除されるとき	☆32ページ参照
ピーッ	全車速追従機能付クルーズコントロール、定速クルーズコントロールが自動解除されたとき	☆32ページ、 63ページ参照
ピピピ…	プリクラッシュブレーキ： 1次ブレーキおよび警報が作動したとき	☆43ページ参照
	プリクラッシュブレーキ： 車間距離警報が作動したとき	
	AT誤発進抑制制御が作動したとき	☆46ページ参照
	全車速追従機能付クルーズコントロールによるブレーキ踏み増し要求警報が作動したとき	☆35ページ参照
ピピピピピピッ	車線逸脱警報が作動したとき	☆51ページ参照
	ふらつき警報が作動したとき	☆54ページ参照
ピッ	全車速追従機能付クルーズコントロールをセット中に ・先行車を認識したとき※ ・先行車がいなくなったとき※	☆25ページ参照
	モード（全車速追従機能付クルーズコントロール←→定速クルーズコントロール）を切り替えたとき	☆59ページ参照
	EyeSightが故障したとき	☆67ページ参照
	EyeSightが一時停止したとき	☆68ページ参照
ポピッ	先行車発進お知らせが作動したとき※	☆56ページ参照

※ 先行車を認識したとき、または先行車を認識しなくなったときのブザー（先行車捕捉音）および先行車発進お知らせ機能の作動あり/作動なしの設定を変更することができます。

☆70ページ参照

EyeSightの故障および一時停止

EyeSightに異常を検知すると、メーター表示部およびマルチファンクションディスプレイの表示によって知らせます。表示内容を確認し、適切な処置を行ってください。

■故障（ステレオカメラの位置・角度ずれ含む）

ブザーが“ピッ”と鳴り、EyeSight 警告灯“Eye Sight”が点滅または点灯します。同時に、プリクラッシュブレーキOFF表示灯と車線逸脱警報OFF表示灯が点灯します。
また、マルチファンクションディスプレイに割り込み画面が表示されます。

S00471

表示	原因	処置
<マルチファンクションディスプレイ> Eye Sight EyeSight の点検が必要です DP3042 ↓ 販売店で点検を受けてください DP3015	EyeSightの故障またはステレオカメラの位置・角度ずれが考えられます。	点検、調整などが必要です。スバル販売店にご相談ください。

⚠ 注 意

次の場合、EyeSight 警告灯が点灯します。警告灯が点灯しているときは、EyeSightの使用はできません。

- ステレオカメラに異常があるとき。スバル販売店で点検を受けてください。
- エンジン警告灯が点灯するなど、EyeSight関連部品に異常があるとき。直ちに車を安全な場所に停めてスバル販売店に連絡し、点検を受けてください。

アドバイス

- EyeSight警告灯が点灯または点滅したときは、安全な場所に停車して、一度エンジンを止めてから、再びエンジンを始動してください。
- エンジンを再始動しても表示が点灯または点滅し続けるときは、EyeSightの異常が考えられます。この場合、EyeSightの全ての機能が停止します。通常走行には支障ありませんが、スバル販売店で点検を受けてください。

■一時停止

ブザーが“ピッ”と鳴り、プリクラッシュブレーキOFF表示灯および車線逸脱警報OFF表示灯が同時に点灯します。
また、メーター表示部に“E1”、“E2”、または“E3”が表示され、マルチファンクションディスプレイに割り込み画面が表示されます。（クルーズメイン OFF 時は表示されません）

原因が解消されると一時停止が解除され、自動的にEyeSightが復帰します。

S00760

表示	原因	処置
＜メーター表示部＞ E1 DP3059 ＜マルチファンクションディスプレイ＞ Eye Sight カメラの視界が悪いため一時停止しました DP3043	ステレオカメラが前方を認識しにくい • フロントガラスの汚れ、曇り • 悪天候時 • 前方からの強い光 • 極端な高温または低温になった後	• フロントガラスをきれいにしてください。 • 悪天候や前方からの光が強い場合、その状況が解消されしばらく走行すると復帰します。また、“E2”の表示後に“E1”が表示されることがありますが、カメラの動作が安定すると復帰します。これらの場合、復帰に時間がかかることがあります。 状況が解消して時間がたっても復帰しない場合、スバル販売店で点検を受けてください。

表示	原因	処置
<メーター表示部> E2 DP3060 <マルチファンクションディスプレイ> Eye Sight カメラの温度が使用範囲外のため一時停止しました DP3044	低温または高温時	EyeSightが使用可能な温度になると復帰します。 室内が常温でも復帰しない場合、スバル販売店で点検を受けてください。
<メーター表示部> E3 DP3061 <マルチファンクションディスプレイ> Eye Sight 作動条件を満足していないため一時停止しました DP3045	• EyeSight起動中 • 車両が極端に傾いていると判断したとき • エンジン始動後、プリクラッシュ2次ブレーキが3回作動したとき • エンジンが停止したとき（アイドリングストップによる停止を除く）	原因が解消されると復帰します。このとき、復帰に時間がかかる場合があります。 原因が解消して時間がたっても復帰しない場合、スバル販売店で点検を受けてください。

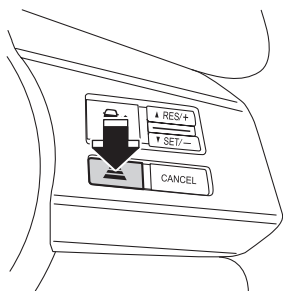
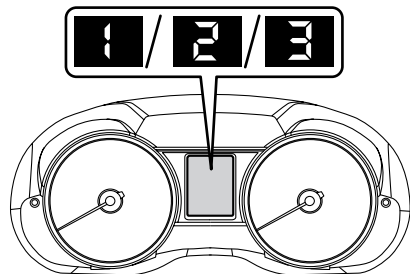
“E1”～“E3”（EyeSight一時停止表示）が表示されたときは、定速クルーズコントロールを除く全てのEyeSightの機能が使用できません。

カスタマイズ機能

■カスタマイズのしかた

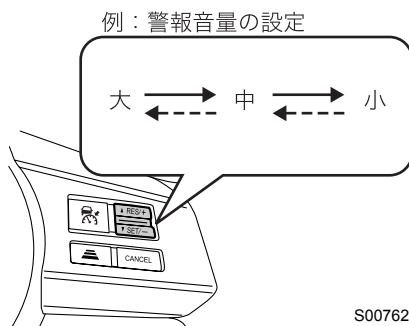
エンジンがかかっていてクルーズメインがOFF（メーターに または が表示されていない）でセレクトレバーが[P]のとき、操作できます。

① (車間設定) スイッチを2秒以上押すと、カスタマイズモードになります。

② (車間設定) スイッチを押すごとにカスタマイズ項目が切り替わり、メーター表示部にカスタマイズ項目と現在の設定が表示されます。

S00741

S00761

表示	項目	設定	出荷時設定
1	警報音量	大 / 中 / 小	大
2	先行車捕捉音	作動あり / 作動なし	作動あり
3	先行車発進お知らせ機能	作動あり / 作動なし	作動あり

③RES/＋スイッチまたはSET/－スイッチを押している間、設定が切り替わります（切り替わるとブザーが鳴ります）。

④RES/＋スイッチまたはSET/－スイッチから手を離したときの設定にセットされます。

例：警報音量の設定

S00762

⑤カスタマイズモードを終了するときは、次のいずれかの操作を行います。

- エンジンスイッチをACCまたはLOCK（OFF）にする
- クルーズメインをONにする
- セレクトレバーを[P]以外にする

●警報音量の設定

警報音量を大/中/小に設定することができます。
RES/＋スイッチまたはSET/－スイッチを押すと設定が切り替わり、設定内容に応じた音量でブザーが“ピピピッ”と鳴ります。

設定	表示
大	1 u.3
中	1 u.2
小	1 u.1

S00682

●先行車捕捉音の設定

先行車捕捉音の作動あり / 作動なしを設定することができます。
RES/＋スイッチまたはSET/－スイッチを押すと設定が切り替わり、作動ありにするとブザーが“ピッ”と鳴り、作動なしにしたときはブザーが鳴りません。

設定	表示
作動あり	2 on
作動なし	2 oF

S00683

●先行車発進お知らせ機能の設定

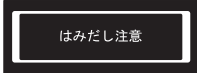
先行車発進お知らせ機能の作動あり/作動なしを設定することができます。
RES/＋スイッチまたはSET/－スイッチを押すと設定が切り替わり、作動ありにするとブザーが“ポピッ”と鳴り、作動なしにしたときは機能としてOFFになりブザーは鳴りません。

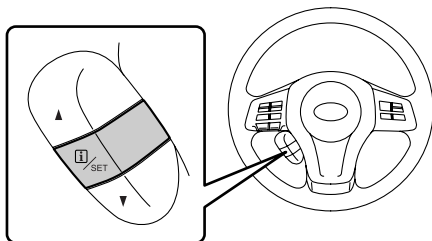
設定	表示
作動あり	3 on
作動なし	3 oF

S00684

エンジンスイッチをLOCK（OFF）にし、再度エンジンを始動しても、エンジンスイッチをLOCK（OFF）にする前の状態を保ちます。

マルチファンクションディスプレイの割り込み画面一覧

EyeSightの警報や異常を検知すると、マルチファンクションディスプレイに割り込み画面が表示されます。画面によっては、表示と同時にブザーが鳴ります。

S00763

割り込み画面が表示された場合、画面一覧を参照し、必要な処置を行ってください。
表示画面1、表示画面2の順に表示します。
i マークが点灯しているときに i (インフォメーション) /SETスイッチを引くと、割り込み画面を再表示することができます。

401689

■画面一覧（警報表示など）

項目	表示画面1	表示画面2	iマーク	処置（参照先）
ブレーキ踏み増し要求警報	前方注意 DP3046	—	無し	☆35ページ参照
プリクラッシュブレーキ				☆36ページ参照
AT誤発進抑制制御				☆46ページ参照
車線逸脱警報	はみだし注意 DP3047	—	無し	☆51ページ参照
ふらつき警報	ふらつき注意 DP3048	—	無し	☆54ページ参照

項目	表示画面1	表示画面2	iマーク	処置（参照先）
先行車発進 お知らせ	先行車が発進しました DP3049	—	無し	☆56ページ参照
定速クルーズ コントロール	定速クルーズ DP3050	—	無し	☆59ページ参照
システムによる 自動解除	OFF DP3051	—	無し	☆32ページ参照
	OFF 先行車無し DP3052	—	無し	☆32ページ参照
	OFF 路面急勾配 DP3053	—	無し	☆32ページ参照

■画面一覧（故障、一時停止）

項目	表示画面1	表示画面2	iマーク	処置（参照先）
EyeSightの故障※	Eye Sight EyeSight の点検が必要です DP3042	販売店で点検を受けてください DP3015	有り （黄色）	☆67ページ参照
EyeSightの 一時停止	Eye Sight カメラの視界が悪いため一時停止しました DP3043	—	無し	☆68ページ参照
	Eye Sight カメラの温度が使用範囲外のため一時停止しました DP3044	—	無し	☆68ページ参照
	Eye Sight 作動条件を満足していないため一時停止しました DP3045	—	無し	☆68ページ参照

※故障箇所により、Eye Sightが点滅または点灯します。

	クルーズコントロールがセットできない
	（クルーズ）スイッチを押し忘れていませんか？ 押し忘れているときは（追従クルーズ）表示が消灯しています。
	EyeSightが一時停止状態になっていませんか？ EyeSightが一時停止状態のときは、メーター表示部にEyeSight一時停止表示“E1”、“E2”または、“E3”が表示されます。 一時停止状態の要因を解消した後、再度設定操作を行ってください。
	READY表示が出ていますか？ （全車速追従機能付クルーズコントロール時）READY表示が出ていないとセットできません。READY表示が出ているときセット操作してください。

	READY表示が出ない
	定速クルーズコントロールになっていませんか？ 定速クルーズコントロールでは、メーター表示部に（車間設定）が表示されません。
	セットできる条件ですか？ 次のいずれかのときは、READY表示は出ません。 • ブレーキペダルを踏んでいるとき • 自車速が約0 km/h～100 km/h以外のとき • メーター表示部のシフトポジション表示がD以外のとき（セレクトレバーやパドルシフトを操作したとき） • 運転席のシートベルトが着用されていないとき • 運転席・助手席・後席のいずれかのドアが開いているとき • 駐車ブレーキがかかっているとき（ブレーキ警告灯が点灯） • 急な坂にいるとき • ハンドルを大きく切っているとき • VDCが解除されているとき

	先行車を認識しない、認識するのが遅い、すぐに認識しなくなるなど
	停止車両、極端に遅い車両ではありませんか？ 停止車両や極端に遅い車両は認識が遅れる場合があります。
	フロントガラスが汚れたり、曇ったりしていませんか？ フロントガラスに汚れや曇りがある場合、先行車を認識しない場合があります。 フロントガラスの汚れや曇りを取り除いてから再び使用してください。
	先行車が遠い距離にいませんか？ ステレオカメラの最大の認識距離は約90 mです。それ以上の距離が開いていると認識しません。
	カーブ路ではありませんか？ 認識範囲は左右に限界があります。
	登り降りが連続した道路（陸橋など）、またはバンク路面（路面が傾いている道路）ではありませんか？ 認識範囲は上下に限界があります。
	先行車が入れ替わっていませんか？ 入れ替わった場合は、認識が遅れる場合があります。
	先行車が水や雪などを巻き上げて走行していませんか？ 水や雪を巻き上げている場合、先行車を認識できない場合があります。

	先行車がいないのに制御を行う
	隣車線に車両はありませんか？ 道路状況によっては隣車線の車両を先行車として認識する場合があります。
	カーブ付近を走行中ではありませんか？ カーブ走行中は、ガードレール、路側の構造物に対してブレーキ制御を行う場合があります。

	先行車がいないのに、先行車発進お知らせが作動する
	車両前方の周辺物や交通環境、天候によって先行車以外の物に対して先行車発進お知らせが作動する場合があります。

	EyeSightが一時停止から復帰しない
	VDCが解除されていませんか？（VDC OFF表示灯点灯） VDCが解除されているときはEyeSightが使用できません。
	雨天の中を、古いワイパーのままや、フロントガラスに油膜が付着した状態で走行していませんか？ ワイパーを新品に替え、フロントガラスの油膜を取り除いてください。
	太陽が真正面（西日など）にあったり、夜間対向車の強いヘッドライトをあびていませんか？ この場合、EyeSightが一時停止状態になります。

	ブレーキ踏み増し警報のタイミングが早いとき、または遅いときがある
	ブレーキ踏み増し警報は、先行車との距離や速度差などから、システムが踏み増し要と判断したときに作動するため、先行車のブレーキのかけ方によってはタイミングが変わる場合があります。

	先行車離脱の後の加速が遅いとき、または速いときがある
	先行車の離脱タイミングによっては、システムの判断が遅くなる場合があり、加速するタイミングが遅く感じる、ブレーキ制御が長く感じる可能性があります。
	[S] モードで走行していませんか？ [S] モードに切り替えると、全車速追従機能付クルーズコントロールの特性が変わるため、加速が異なります。

	クルーズコントロールが勝手に解除された
	次のいずれかの操作をしている。 • ブレーキペダルを踏んでいませんか？ • CANCEL（キャンセル）スイッチを押していませんか？ • パドルシフトレバーを操作していませんか？ • セレクトレバーをMにしていませんか？ • VDC OFFスイッチを押していませんか？（VDC OFF表示灯点灯）
	EyeSightが一時停止状態になっていませんか？

	自動ブレーキが作動すると音がする
	自動ブレーキの作動音で異常ではありません。

	渋滞走行時、ブレーキ制御を行う頻度が高い
	人の運転と異なり先行車の動きのみにあわせての制御ですので、頻繁な加減速となる場合があります。なお、このような状況で車間距離が保ちにくい場合は使用を控えてください。

	下り坂でクルーズコントロールを使用中に、弱いショックを感じる
	シフトダウン（低速ギヤに変速する）制御を行っているので弱いショックを感じることがあります。

さくいん

ふ

ま

め

り

れ

A

C

E

R

S

ご意見、ご感想、お問い合わせはお近くのスバル販売店
または弊社「SUBARUお客様センター」へお願いいたします。

＊お乗りのお車に関してお電話等でお問い合わせをいただく際は、お客さまへ正確・迅速にご対応させていただくために、あらかじめ、お手元にお車の車検証等をご準備いただきますようご協力をお願いしております。

①車検証記載事項
　型式・車台番号・登録番号・登録年月日
②走行距離
③販売店・担当者名

SUBARUお客様センター

SUBARUコール フリーダイヤル 携帯・PHS OK 0120－052215

受付時間　9:00～17:00(平日)、土日祝は9:00～12:00、13:00～17:00

SUBARUお客様センターでは下記の内容を承っております。
(1) ご意見／ご感想／ご案内（カタログ、販売店、転居お手続き 他）
(2) お問合せ／ご相談
※平日の12:00～13:00および土日祝は（1）のインフォメーションサービスのみとなります。

富士重工業株式会社
〒160-8316　新宿区西新宿1-7-2（スバルビル）

編集・発行　**富士重工業株式会社**

スバルカスタマーセンター

IMPREZA/XV GJ2-004301～,GJ3-004601～,
GJ6-004101～,GJ7-009101～,GP2-011301～,
GP3-007301～,GP6-007801～,GP7-020301～